



TITLE:

彙報 (2017年4月-2018年3月)

AUTHOR(S):

CITATION:

彙報 (2017年4月-2018年3月). 人文學報 2018, 112: 153-195

ISSUE DATE:

2018-06-30

URL:

<https://doi.org/10.14989/235923>

RIGHT:

彙 報

2017年（平成29年）4月～2018年（平成30年）3月

研 究 状 況 (2017年度)

公募型研究班

チベット・ヒマラヤ文明の史的展開の学際的研究

班長 岩尾一史

研究期間 2015年4月～2018年3月（3年度目）

研究実施状況

〔研究会と研究報告〕：本年度は合計で8回の研究会を行うことができた。班員それぞれの研究関心に沿った研究報告を依頼し、歴史学、文化人類学、言語学の各分野から、古代～現在にいたるまでのチベット文化の諸相について最先端の研究報告を聞くことができた。本年度の特徴としては、班員が主催あるいは関与したチベット学関係の学会や国際討論会が開かれて、本研究班の構成員との間での活発な研究交流が行われた。また例会においては議論の時間を出来るだけ多く取ったことにより、異分野からの情報提供・意見交換をより活発に行うことにも成功した。各回の具体的な内容は以下の実施内容を参照されたい。

〔研究成果報告論集の編集〕：本研究班の成果をまとめた研究報告論集『チベット・ヒマラヤ文明の史的展開』の編集会議を研究会開催時に複数回行ない、年度末の刊行に向けて編集作業を進めた。

研究班員

所内：池田 巧、稲葉 穰、中西竜也

学内：熊谷誠慈（こころの未来研究センター）、

マルク＝アンリ・デロッシュ（総合生存学館）、安田章紀（こころの未来研究センター）、長岡 慶（アジア・アフリカ地域研究科）

学外：武内紹人（神戸市外国語大学）、西田愛（神戸市外国語大学）、大川謙作（日本大学）、別所裕介（駒澤大学）、星泉（東京外国語大学）、根本裕史（広島大学）、池尻陽子（関西大学）、海老原志穂（東京外国語大学）、山本明志（大阪国際大学）、小西賢吾（金沢星稜大学）、山本達也（静岡大学）、小野田俊蔵（佛教大学）、三宅伸一郎（大谷大学）、小松原ゆり（明治大学）、村上大輔（駿河台大学）、井内真帆（神戸市外国語大学）、加納和雄（駒澤大学）、大羽恵美（金沢大学）、大西啓司（龍谷大学）、黒田有誌（龍谷大学）

研究実施内容

2017年

4月15日 牧夫の終末一消えていくチベットの牧畜業と改革を希む人々

発表者：別所裕介（駒澤大学）

5月20日 青海ホシュート部のアムド支配の形成と清朝による解体・再編

発表者：岩田啓介（東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所：学振PD・非常勤）

6月17日 『13条章程』制定からみる清朝の対チベット政策

発表者：黒田有誌（龍谷大学：研究生）

7月15日 越境する梵文写本：中世のヒマラヤ地域、南アジアにおけるモノと人との交流

- 発表者：加納和雄（駒澤大学）
- 10月21日 A Phonological Sketch of a Tibetan
Kham Dialect Spoken in Mingyong
Village in the Yunnan bDe chen
Tibetan Autonomous Prefecture.
発表者：池田 巧
- 12月16日 西夏国に於ける「抄」の構成と機能に
ついて 発表者：大西啓司
（龍谷大学仏教文化研究所客員研究
員・非常勤）
- 2018 年
- 1 月20日 『ボーディサットヴァ・アヴァダーナ・
カルパラター』（パクサムティシン）
のタンカに描かれたイメージ
発表者：大羽恵美
（金沢大学文化資源学研究センター客
員研究員・非常勤）
- 3 月17日 チベット語の未完了継続相の助動詞句
の歴史的推移 発表者：星 泉
（東京外国語大学アジアアフリカ言語
文化研究所）

オーラル・ヒストリー・アーカイヴスによる戦後日
本映画史の再構築

班長 谷川建司

研究期間 2016 年 4 月－2019 年 3 月（2 年度目）
研究実施状況

三年計画の第二年度である本年度は、まず年度初
めの 4 月 30 日（日）に第一回研究会を開催、ゲスト
として、映画プロデューサー・監督の岡本みね子
氏（中みね子氏）をお招きして、主として岡本みね
子氏の亡き夫である岡本みね子氏監督の諸作品を陰
で支えた映画作りの実務面について話を伺った。ま
た、付き添い役として、岡本喜八氏・みね子夫妻の
娘で女優の岡本真実氏（前田真実氏）にも同席して
もらい、補足説明をして頂いた。第二回研究会は 6
月 10 日（土）・11 日（日）に行われ、初日には先
ず大澤佳枝（フリーランス映画研究者）が映画『祇
園祭』の資料調査報告を行った。その後、映画俳優
として大映・東映という二つの会社で仕事をされた
品川隆二氏をゲストに迎え京都における映画製作の
現場の様々な事情を俳優という立場から語って頂い

た。翌日はオーラル・ヒストリーの方法論に関して
菊池暁（人文研）より民俗学の立場から報告してい
ただき、併せて関連映像として『北白川こども風土
記』を皆で鑑賞した。第三回研究会は 7 月 13 日
（土）の一日のみ、場所もゲストの都合もあって東
京の早稲田大学にて開催した。ゲストには芸能雑誌
『平凡』『週刊平凡』で長年、映画業界を取材してき
た高木清氏を招き、ファン雑誌と映画会社宣伝部の
相互依存的な関係について学んだ。第四回研究会は
9 月 9 日（土）・10 日（日）に開催され、初日には
元・大映の経理担当から大映テレビ社長となった安
倍道典氏を招き、井上雅雄（立教大学名誉教授）の
進行の下、大映という映画会社の経営の在り方、そ
して倒産に至った経緯についての話を伺い、二日目
には谷川建司が進行役を務めて、今後の研究会の在
り方について議論を行った。その結果、これまでの
（1）、ゲストを招いてのインタビュー、（2）、京都府
出資で製作された映画『祇園祭』についての検討、
（3）、オーラル・ヒストリーの在り方についての検
討、という三つの柱に加えて、（4）、最終的なアウト
プットとしての論考集の出版、という方向性を加
えることとなり、次回以降の研究会では順次、論考
の許となるメンバー個人の研究発表も行っていくこ
ととなった。また、最終年度に映画『祇園祭』の上
映及び同作品に関するシンポジウムを開催すること
を共通の認識として確認した。第五回研究会は 11
月 19 日（日）に開催された。先ず午前中は井上雅
雄による発表（入院することとなったため木村智哉
が代読）が行われ、午後には元・東宝、三船プロダ
クションの衣裳担当だった池田誠氏をゲストに迎え
て、衣裳という観点で映画製作のシステムを学んだ。
第六回研究会は 2018 年 1 月最終週もしくは 2 月第
一週の土日二日間にて行われる予定である。初日に
は元・日活で美術を担当した千葉一彦氏をゲストに
迎えてセット建設など、美術の観点で映画製作のシ
ステムを学んだ。二日目には、谷川建司（早稲田大
学）が自身の研究テーマについて発表を行った。

研究班員

所内：高木博志、岩城卓二、藤原辰史、小川佐和
子、菊地暁、小野容照、高階絵里加

学内：木下千花（人間・環境学研究科）、久保豊

(人間・環境学研究科)		司会：井上雅雄（立教大学）	
学外：谷川建司（早稲田大学）、晏妮（日本映画大学）、板倉史朗（神戸大学大学院）、井上雅雄（立教大学）、大澤佳枝（フリーランス映画研究者）、小川順子（中部大学）、北浦寛之（国際日本文化研究センター）、木村智哉（明治学院大学）、河野真理江（立教大学）、須川まり（奈良県立大学）、富田美香（国立近代美術館フィルムセンター）、長門洋平（京都外国語大学）、西村大志（広島大学大学院）、花田史彦（京都大学大学院）、上田学（神戸学院大学大学院）、園田恵子（フリーランス映画研究者）、ミツヨ・ワダ・マルシアーノ（Carlton University）	9月10日	第4回研究会（2日目）	今後の研究会の方針に関する話し合い 司会：谷川建司（早稲田大学）
	11月19日	第5回研究会	新映画会社の設立構想とその挫折：「日映」事件とその歴史的意味 発表者：井上雅雄（立教大学） 池田誠氏へのインタビューおよび質疑応答 発表者：池田誠（元・東宝） 司会：谷川建司（早稲田大学）
研究実施内容		2018年	
2017年		1月27日	第6回研究会（1日目） 千葉一彦氏（映画美術監督）インタビューと質疑応答 発表者：千葉一彦（元・日活） 司会：谷川建司（早稲田大学）
4月30日	第1回研究会	1月28日	第6回研究会（2日目） 時代劇低迷期以後のスターの活躍の場としての舞台の展開：東映歌舞伎・東宝歌舞伎をめぐって 発表者：谷川建司（早稲田大学）
岡本みね子氏へのインタビューと質疑応答 司会：谷川建司（早稲田大学） 発表者：岡本みね子（映画監督・製作）		フーコー研究—人文科学の再批判と新展開	
6月10日	第2回研究会（1日目）	班長 小泉義之	
映画『祇園祭』資料調査報告 発表者：大澤佳枝（フリーランス映画研究者） 品川隆二氏へのインタビューと質疑応答 発表者：品川隆二（映画俳優） 司会：谷川建司（早稲田大学）		研究期間	2017年4月—2020年3月（1年度目）
6月11日	第2回研究会（2日目）	研究実施状況	本共同研究の中核は、班員がそれぞれの研究報告を行う研究会（例会）である。初年度である本年度は、ここまで、全4回の例会（各回2日連続、したがって8日）および1回の特別例会を開催した。例会の組織に当たっては、本研究の成果が単なる個人研究の集積になることを避けるため、各班員は班長と意見交換を行いながら自身の研究テーマを設定し、それぞれの個別研究が互いに有機的に関連し合うようなプログラムの構築に努めている。また、人文・社会系諸学を対象にしたミシェル・フーコーの仕事を見直す上で、フーコーが分析した諸言説、およびその諸言説をとりまく歴史的・同時代的言説の総体を原典回帰によって読解し直しつつ、さらにフーコー自身の分析を追認もしくは反駁する後発研究の
オーラル・ヒストリーの方法をめぐって『北白川こども風土記』上映 発表者：菊池 暁			
7月13日	第3回研究会		
高木清氏インタビューと質疑応答 司会：谷川建司他（早稲田大学） 発表者：高木 清（雑誌編集者）			
9月9日	第4回研究会（1日目）		
安倍道典氏インタビューと質疑応答 発表者：安倍道典（大映テレビ株）			

検証を重ねている。各例会のプログラムについては、下記「本年度の研究実施内容」欄を参照のこと。

研究班員

所内：立木康介，佐藤淳二，王寺賢太，森本淳生，瀬戸口明久，田中祐理子，藤井俊之，武田宙也，春木奈美子，沈恬恬

学外：小泉義之（立命館大学），市田良彦（神戸大学），長原豊（法政大学），上田和彦（関西学院大学），布施哲（名古屋大学），佐藤嘉幸（筑波大学），廣瀬純（龍谷大学），隠岐さや香（名古屋大学），前川真行（大阪府立大学），北垣徹（西南学院大学），中井亜佐子（一橋大学），千葉雅也（立命館大学），松本潤一郎（就実大学），西迫大祐（明治大学），相澤伸依（東京経済大学），藤田公二郎（大阪大学），櫻田和也（大阪市立大学），箱田徹（大阪市立大学），上尾真道（滋賀大学），堀尾耕一（一橋大学），TAJAN, Nicolas（国立精神神経医療研究センター）

研究実施内容

2017 年

5 月13日 第1回例会（1日目）
Histoire de la sexualité, 1 : La volonté de savoir (1976)の現行訳について
発表者：小泉義之（立命館大学）
クロスオーヴァー パルト／フーコー
発表者：立木康介
フランスの中絶解放運動とフーコー
発表者：相澤伸依

5 月14日 第1回例会（2日目）
フーコーにおける精神分析と狂気：『狂気の歴史』から『精神医学の権力』まで
発表者：上尾真道（滋賀大学・非常勤）
博士論文報告『主体化の哲学のためにーミシェル・フーコー研究』
発表者：藤田公二郎（大阪大学）

7 月15日 第2回例会（1日目）
フーコーと法 (Loi, Droit)
発表者：西迫大祐（明治大学）

フーコーと文学 発表者：森本淳生
7 月16日 第2回例会（2日目）
生権力を包含する現代メンタルヘルス・サイエンスに従属する規律権力としての精神医学

発表者：ニコラ・タジャン
（国立精神神経医療研究センター）
フーコーと「真理」の言語化

発表者：武田宙也
（大学院人間・環境学研究科）
9 月30日 第3回例会（1日目）

ポリスと統治：福祉国家以後の（その1）
発表者：前川真行
（大阪府立大学）

18世紀科学史研究におけるミシェル・フーコーの位置付け：数学の社会史を中心に

発表者：隠岐さや香（名古屋大学）
10月1日 第3回例会（2日目）

Discontinuité et critique de la notion de « précurseur » en histoire des savoirs : réflexions sur un défi historiographique de Georges Canguilhem et Michel Foucault

発表者：Emmanuel Delille Centre Marc Bloch
モラル・トリートメントとは何か：『狂気の歴史』から考える
発表者：北垣 徹（西南学院大学）

2018 年

1 月26日 特別例会
Michel Foucault face à la complexité des univers normatifs

発表者：Otto PFERSMANN
（招へい研究員，Écoles des Hautes Études en Sciences Sociales）

1 月27日 第4回例会（1日目）
ビッグ・サイエンスと環境のテクノロジー
発表者：瀬戸口明久
監獄情報グループにおける下層プロレタリア問題

- 発表者：櫻田和也（大阪市立大学）
- 1月28日 第4回例会（2日目）
三つの『侍女たち』：フーコー、ラカン、森村 発表者：立木康介
フーコー『狂気の歴史』における『ラモアの甥』の位置 発表者：王寺賢太
- 3月17日 第5回例会（1日目）
「自己への配慮」を促す他者の他者性—フーコー『主体の解釈学』、『自己と他者の統治』、『真理の勇氣』における有限性の機能
発表者：千葉雅也（立命館大学）
パレーシアと精神分析
発表者：春木奈美子（人文研・日本学術振興会）
- 3月18日 第5回例会（2日目）
フレンチ・セオリーとしてのフーコー（サイドとフーコー）
発表者：中井亜佐子（一橋大学）
告白，パレーシアから「文学的」語りへ—隷属化されない主体化を求めて
発表者：上田和彦（関西学院大学）
- 人文学研究部

現代/世界とは何か？—人文学の視点から

班長 岡田暁生，小関隆

研究期間 2015年4月—2018年3月（3年度目）

研究実施状況
本研究班の最終年度となる2017年度には，通常の例会を6回開催したのに加え，人文研アカデミーの一環として，広く一般に公開されるかたちの特別例会＝合評会を1回，さらに，フランスから研究者を迎えて特別例会を1回開催した。例会の開催はひとまず10月で終了，後期からは研究成果のとりまとめ・公刊に向けた打ち合わせに力点を置き，2018年1月までに6回（8月8日，10月10日，11月16日，11月22日，12月12日，1月9日）の編集会議を開催した。その結果，研究班の成果を2冊の書物（山室信一編『人文学宣言』山室・岡田暁生・小関隆・藤原辰史編『現代・世界と人文学』，いずれ

も仮題）として刊行する方針となり，現在，出版社との交渉や執筆者との意見交換を進めている。2018年度中に2つの成果の出版に漕ぎつけることが，現時点の見通しである。

研究班員

所内：小関隆，伊藤順二，岡田暁生，小川佐和子，高階絵里加，藤井俊之，石井美保，石川禎浩，岩城卓二，王寺賢太，瀬戸口明久，高木博志，田中雅一，立木康介，藤原辰史，イリナ・ホルカ，村上 衛，森川裕貫，小石かつら

学内：猪股祐介（学際融合教育研究推進センター・研究員），金沢周作（文学研究科），奈良岡聰智（法学研究科），永原陽子（文学研究科），西牟田祐二（経済学研究科）

学外：山室信一，小野容照（九州大学），大浦康介，池田嘉郎（東京大学），石垣 勝（東京大学），石橋悠人（新潟大学），板橋拓己（成蹊大学），伊東信宏（大阪大学），井野瀬久美恵（甲南大学），今井宏昌（日本学術振興会特別研究員），上尾真道（立命館大学），上田和彦（関西学院大学），遠藤 乾（北海道大学），大津留 厚（神戸大学），小野塚知二（東京大学），小野寺史郎（埼玉大学），田辺明生（東京大学大学院総合文化研究科）

研究実施内容

2017年

- 4月22日 「核時代の歴史家：E.P.トムスンと核武装解除運動」 発表者：小関 隆
- 5月12日 「ロベスピエールの政治思想の軌跡——共通の理性から道徳的快感へ——」 発表者：上田和彦
- 5月27日 セーブ・ザ・チルドレン，チャリティ，人道主義——エグランタイン・ジェブ伝を中心に 発表者：金澤周作
- 6月9日 「八月の砲声」のこだま—第一次世界大戦勃発時のヨーロッパ日本人
発表者：奈良岡聰智
- 6月24日 ウィーンのユダヤ人社会の消滅——ホロコーストとゲマインデ

- 発表者：野村真理
- 7月29日 特別例会「公開合評会：アドルノ/ラカン ——感性と理性の狭間で——」
発表者 藤井俊之
発表者 上尾真道
- 9月27日 特別例会：ジゼル・サピロ講演会
『ドイツ占領下におけるフランスの文学場』 発表者：ジゼル・サピロ
(CNRS-EHESS)
- 10月6日 「貯蓄と投資」と現代史—二つの世界大戦を接続する—
発表者：坂本優一郎

智靖（東京大学・研究員），小倉智史（東京外国語大学），尾園絢一（東北大学・専門研究員），梶原三恵子（東京大学），河崎豊（東京大学），小林正人（東京大学），佐藤直美（宗教情報センター・研究員），柴崎麻穂（中村元東方研究所・専任研究員），田辺明生（東京大学），手嶋英貴（京都文教大学），堂山英次郎（大阪大学），名和隆乾（大阪大学），西村直子（東北大学・非常勤講師），沼田一郎（東洋大学），山田智輝（大阪大学・招へい研究員），吉水清孝（東北大学）

研究実施内容

ブラフマニズムとヒンドゥイズム—南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性 班長 藤井正人
研究期間 2016年4月—2019年3月（2年度目）
研究実施状況

本研究では3年の研究期間を半年ごとの全6クールに分け、各クールごとにテーマを設定し、複数回の定例研究会とクール最後のシンポジウムを開催している。今年度前半の第3クールでは、古代および中世インドの神話と説話について、ヴェーダ、初期仏典、大乘経典、古典説話、ヒンドゥー教からの報告が行われ、10月に「古代・中世インドの神話、説話、表象」をテーマに第3回シンポジウムを人文科学研究所で開催した。後半の第4クールでは、ブラフマニズムとヒンドゥイズムにおける儀礼、制度、社会生活を取り上げ、定例研究会で報告を行うとともに、年度末に「古代インドにおける儀礼、制度、社会」（仮）をテーマに第3回シンポジウムを東京大学で開催する予定である。

研究班員

所内：藤井正人，井狩彌介，田中雅一，石井美保
学内：赤松明彦（文学研究科），横地優子（文学研究科），天野恭子（白眉センター），八木綾子（文学研究科・非常勤講師），川村悠人（学振・特別研究員），高橋健二（文学研究科・博士後期課程）
学外：伊澤敦子（国際仏教学大学院大学・図書館職員），井田克征（金沢大学・客員研究員），永ノ尾信悟（東京大学・名誉教授），大島

2017年

- 4月28日 「祭式における寸法：表象と現実のせめぎあいを見る」
発表者：手嶋英貴（京都文教大学）
- 6月23日 「神話の起源と伝承について—捨て子伝説に関する一考察—」
発表者：堂山英次郎（大阪大学）
- 7月21日 「神話における頭部の切断と再生について」
発表者：伊澤敦子（国際仏教学大学院大学）
- 9月1日 「ブリハッド・カターに登場する王と神—カシミール系ブリハッド・カターを中心に」
発表者：柴崎麻穂（中村元東方研究所）
- 「仏伝と大乘仏教の関係—降魔成道と阿闍仏」
発表者：佐藤直美（宗教情報センター）
- 「中世バクティ教団における出家者—マハースバーヴ派の聖者伝から—」
発表者：井田克征（金沢大学）
- 10月7日 第3回シンポジウム「古代・中世インドの神話、説話、表象」
「古代インドの捨て子伝説をめぐって」
発表者：堂山英次郎（大阪大学）
「ヴェーダ文献における河川について」
発表者：山田智輝（大阪大学）
「神話における頭部の切断と再生について」
発表者：伊澤敦子

- (国際仏教学大学院大学)
「パリー聖典におけるブラフマー神の諸相」 発表者：名和隆乾 (大阪大学)
「降魔成道と阿閼仏」 発表者：佐藤直美 (宗教情報センター)
「説話世界の輪転聖王—ブリハッド・カタール諸伝本の比較を通して」 発表者：柴崎麻穂 (中村元東方研究所)
「中世マハーラーシュトラのバクティ教団における出家者の実像」 発表者：井田克征 (金沢大学)
11月17日 「ジャイナ教文献に見られる葬送儀礼の一考察」 発表者：河崎 豊 (東京大学)
12月15日 「ヴェーダ入門・学習儀礼における帯と衣について」 発表者：梶原三恵子 (東京大学)
2018 年
1 月12日 「Maitrāyaṇī Saṃhitā における非シュラウタ儀礼の記述について」 発表者：天野恭子 (京都大学白眉センター)
2 月 9 日 「『家系の継続』に関する一考察—『シュナハシェーパの物語』と『クサ・ジャータカ』を中心として」 発表者：西村直子 (東北大学)
「ヴェーダ祭式で用いる香[料]をめぐる」 発表者：大島智靖 (東京大学)
3 月 9 日 「『マハーバーラタ』における馬祀祭の位置づけとその歴史的背景について」 発表者：高橋健二 (京都大学文学研究科博士課程)
3 月24日 第4回シンポジウム「古代・中世インドの儀礼、制度、社会」
「古代南インドのパラモン」 発表者：高橋孝信 (東京大学)
「ヴェーダ文献に見られる牝牛崇拝の

- 萌芽」 発表者：天野恭子 (京都大学白眉センター)
「古代インドにおける『息子の獲得』」 発表者：西村直子 (東北大学)
「儀礼における『香』の利用」 発表者：大島智靖 (東京大学)
「入門儀礼と学習儀礼における衣について」 発表者：梶原三恵子 (東京大学)
「『マハーバーラタ』における馬祀祭の位置づけについて」

- 発表者：高橋健二 (京都大学文学研究科博士課程)
3 月25日 第4回シンポジウム「古代・中世インドの儀礼、制度、社会」
「法典のアルタ的要素と実利論のダルマ的要素」 発表者：沼田一郎 (東洋大学)
「ジャイナ教文献に見られる葬送儀礼」 発表者：河崎 豊 (東京大学)
「王権儀礼から見た仏教と女神信仰の共存—Tapa Sardar 僧院遺跡をめぐる」 発表者：横地優子 (京都大学文学研究科)
「ヴェーダ祭式『アグニチャヤナ』をめぐる」 発表者：井狩彌介 (京都大学人文科学研究所)

アジアにおける人種主義の連鎖と転換

班長 竹沢泰子

研究期間 2016 年 4 月—2019 年 3 月 (2 年度目)

研究実施状況

平成 29 年度で 2 年目を迎えた本研究会は、科学研究費基盤 (S) と連動させながら、アジアにおける人種主義に主眼を置いた共同研究を進めている。本年度は、環太平洋における移民・難民をテーマとした共同研究、ヒトゲノム研究からわかるヒトの進化の歴史と集団差にかんする文理融合の共同研究などを実施した。さらに昨年度に刊行されたシリーズ「人種神話を解体する」(全 3 巻)のうちの第 1 巻・第 2 巻それぞれの出版記念セミナー (人文研アカデ

ミー)を6-7月および11-12月に新丸の内ビル内の関連施設で開催し、東京圏においても研究の社会還元に向けた。また昨年度に締結したフランス国立社会科学高等研究院のTEPSISと人文研の学術交流協定に基づき、フランス人研究者5名(うち4名がTEPSIS)を迎え、日本人研究者と「人種概念の連鎖と変容」をテーマとして合宿形式の共同研究を行った。また本研究会のメンバーと海外3カ国の研究者とともに、アメリカ人類学会の部会において研究発表を行い、年度内の3月には、沖縄において、日本学術会議と共催で「DNAからみる集団と個」と題したサイエンスカフェを開催、また研究会メンバーの5名がパリに出向き、フランス国立社会科学高等研究院にて研究報告を行ったり、3名がアメリカ人研究者3名とともにアジア系アメリカ人研究学会において部会において発表したりする予定である。研究班員

所内:石井美保, 瀬戸口明久, 徳永悠

学内:川上浩司(大学院医学研究科), 佐野亘(大学院地球環境学堂), Caroline Hau(東南アジア研究所)

学外:田辺明生(東京大学), 太田博樹(北里大学), 鬼丸武士(九州大学), 坂野徹(日本大学), 篠田謙一(国立科学博物館), 関口寛(四国大学), 瀬口典子(九州大学), 徳永勝士(東京大学), 成田龍一(日本女子大学), 舟橋健太(龍谷大学), 吉村智博(大阪人権博物館), John Russell(岐阜大学), 渡辺紀子(立命館大学), 崔徳孝(ケンブリッジ大学), Arnaud Nanta(フランス国立科学研究センター(CNRS)), Mark Winchester(神田外国語大学)

研究実施内容

6月7日 第1回 国際セミナー

Plants, Pathogens, and Empire: Race Across the Pacific in the Early 20th Century

発表者: Jeannie N. Shinozuka
(University of Washington)

コメンテーター: 瀬戸口明久

6月22日 第2回 『人種神話を解体する:「血」の政治学を越えて』出版記念連続セミ

ナー第1回表象と呼称をめぐる問題
「血」の政治学を越えて

発表者: 竹沢泰子

呼称をめぐる議論と表象略史

発表者: 岡村兵衛(歴史研究者)

6月29日 第3回 『人種神話を解体する:「血」の政治学を越えて』出版記念連続セミナー第2回映画表象にみる人種・ジェンダー・セクシュアリティ

1930年代の「混血児」表象:『港の日本娘』『からゆきさん』を題材に

発表者: 高美罌(法政大学)

沖縄という風景に抗して:『BLUES HARP』を題材に

発表者: 菅野優香(同志社大学)

7月1月 第4回 研究会

Causality, War Responsibility, and the Historical Subject in Postwar Japan
(戦後日本における戦争責任, 因果関係と歴史主体について)

発表者: 小山ひとみ(龍谷大学)

The End of Empire and the Re-ethnicisation of Nations in the Indian Ocean Region: Examples from India, Sri-Lanka, Malaysia and Mauritius

発表者: Crispin Bates

(The University of Edinburgh)

7月6月 第5回 『人種神話を解体する:「血」の政治学を越えて』出版記念連続セミナー第3回「混血」から歴史を読み直す

植民地統治下の白人性と「混血」: 英領インドの事例から

発表者: 水谷智(同志社大学)

アメリカのスポーツと「混血」

発表者: 川島浩平(武蔵大学)

7月13日 第6回 『人種神話を解体する:「血」の政治学を越えて』出版記念連続セミナー第4回自分らしい生き方を求めて「ハーフ」の若者たちの自己像:日本とパキスタンの国際結婚の子どもたち

- 発表者：工藤正子（京都女子大学）
在日「ダブル」の歴史観：加害／被害
の二元論の超克
発表者：李洪章（神戸学院大学）
- 7月21日 第7回 文理融合研究会
Jon Marks 氏の仕事について
発表者：瀬口典子（九州大学）
Can Genomics Keep its Promises?
発表者：Jon Marks
(University of North Carolina)
Natural Positive Selection and Human
Phenotypic Variation
発表者：中山一大（東京大学）
- 7月22日 第8回 文理融合研究会
Poh-San Lai 氏の仕事について
発表者：徳永勝士（東京大学）
Next Generation Genomics Studies
and Population Data
発表者：Poh-San Lai
(National University of Singapore)
- 7月27日 第9回 『人種神話を解体する：「血」
の政治学を越えて』出版記念連続セミ
ナー合評会
『人種神話を解体する：「血」の政治学
を越えて』の合評会
コメンテーター：岩渕功一
(Monash University)
コメンテーター：成田龍一
(日本女子大学)
コメンテーター：川島浩平
(武蔵大学)
コメンテーター：内堀基光
(放送大学)
コメンテーター：田辺明生
(東京大学)
コメンテーター：竹沢泰子
- 9月8日 第10回 研究会
1992年ロスアンジェルス蜂起をめぐ
る表象の政治学
発表者：土屋和代（東京大学）
誰が生きるべきか、誰が死ぬべきか：
- 北海道開拓植民地主義における労働力
と人種の問題をめぐって
発表者：平野克弥
(University of California,
Los Angeles)
- 10月14日 第11回 研究会
Timothy Caulfield 氏の仕事の紹介と
文献紹介 発表者：竹沢泰子
The New Genetic Revolution: Em-
phasizing Population or Individual
Health? 発表者：Timothy Caulfield
(University of Alberta)
- 11月10日 第12回 『人種神話を解体する：科学
と社会の知』出版記念連続セミナー第
1回人種研究と日本の人文科学
日本の考古学と人種研究
発表者：坂野徹（日本大学）
日本近代の民衆統治と科学的人種主義
発表者：関口寛（四国大学）
- 11月24日 第13回 『人種神話を解体する：科学
と社会の知』出版記念連続セミナー第
2回ヒトの多様性に関する最新の成果
から
人類集団遺伝学についての“集団”と
は何か？
発表者：太田博樹（北里大学）
「人種」優劣と植民地主義に繋がった
自然人類学
発表者：瀬口典子（九州大学）
- 12月8日 第14回 『人種神話を解体する：科学
と社会の知』出版記念連続セミナー
第3回 人種研究とマイノリティ
身体と贈与と共同体の生成：インドの
事例から 発表者：石井美保
ハンセン病者のアナキズム：フィリピ
ンでアメリカの植民地秩序を変える
発表者：日下渉（名古屋大学）
- 12月16日 発表者：長志珠絵（神戸大学）
発表者：Silvia Falconieri
(フランス国立社会科学高等研究院)
発表者：関口寛（四国大学）

- 発表者：Jean-Frédéric Schaub
(フランス国立社会科学高等研究院)
発表者：竹沢泰子
発表者：Anne Lafont
(フランス国立社会科学高等研究院)
発表者：田辺明生 (東京大学)
12月17日 発表者：太田博樹 (北里大学)
発表者：Sarah Abel
(フランス国立社会科学高等研究院)
発表者：Arnaud Nanta
(フランス国立科学研究センター)
12月22日 第15回 『人種神話を解体する：科学
と社会の知』出版記念連続セミナー座
談会 人種集団の分類とカテゴリーを
めぐって
コメンテーター：太田博樹 (北里大学)
コメンテーター：篠田謙一 (国立科学博物館)
コメンテーター：田辺明生 (東京大学)
コメンテーター：徳永勝士 (東京大学)
コメンテーター：坂野 徹 (日本大学)
コメンテーター：竹沢泰子
12月24日 第16回 研究会
博物館におけるマイノリティ表象の可
能性：社会的差別と普遍的な人権のあい
だ
発表者：吉村智博 (大阪人権博物館)
移民受入論が内包する人種主義：排日
移民法後のメキシコ人労働者をめぐる
議論から 発表者：徳永悠
12月27日 第17回 研究会
健康、医療データベースの基盤整備と
活用の道筋
発表者：川上浩司 (医学研究科)
乳癌の発生動向と最近の乳癌診療の進
歩 発表者：戸井雅和 (医学研究科)
2018年
1月21日 第18回 研究会
国境を越えた被差別部落民の移動と
「人種化」の連鎖
発表者：関口寛 (四国大学)
東南アジアにおける植民地統治とカテ
ゴリー：シンガポールを事例として
発表者：鬼丸武士 (九州大学)
3月11日 Three dimensions of race, Jean-Fréd
eric Schaub Scholarship and activism
発表者：竹沢泰子
Anti-Racism and Spiritual Univer
salism: Connectivity and Diversion of
Transnational Nationalisms of Japan
and India in the Late Nineteenth and
Early Twentieth Centuries
発表者：田辺明生 (東京大学)
Anthropologie coloniale, politique
aborigène et racisation des populations
à Taiwan du temps de l'empire
japonais (1895-1945)
発表者：Arnaud Nanta
(フランス国立科学研究センター)
Cultural and Social Factors Influence
on Human Genetic Diversity
発表者：太田博樹 (北里大学)
The Blurry Edges of a 'Hard' Science
発表者：Sarah Abel
(フランス国立社会科学高等研究院)
Disposition and transformation of
discourses on 'international marriage':
Understanding theories on race and
racialization in modern Japan
発表者：長志珠絵 (神戸大学)
European law versus "race" (19th-
20th centuries). Issues, perspectives
and contributions of the legal history
発表者：Silvia Falconieri
(フランス国立社会科学高等研究院)
3月12日 Translating and Transforming 'Race':
Early Meiji Period Textbooks
発表者：竹沢泰子
Visual Cultures of Race in the French
Enlightenment 発表者：Anne Lafont
(フランス国立社会科学高等研究院)
Racialization and Global Development
of Technology of Governance:

Analysis of Buraku Issue in Japan

発表者：関口寛（四国大学）

Is race appropriate to describe social domination in colonial Latin America?

発表者：Jean-Frédéric Schaub
（フランス国立社会科学高等研究院）

生と創造の探究—環世界の人文学

班長 藤原辰史・石井美保

研究期間 2017年4月—2020年3月（1年度目）

研究実施状況

2017年3月に終了した「環世界の人文学——生きもの、なりわい、わざ」を引き継ぐ本研究班の初年度である本年度は、各班員による個別課題についての研究報告を中心に例会を開催するとともに、ゲスト・スピーカーを招いた研究会や国際シンポジウムを開催し、人間と非人間的存在の関係、ならびに環世界の形成と変容に関する活発な議論を行った。個別課題研究では、それぞれの事例に基づき、病原菌や動植物をはじめとする他の生物との関係性の中で人間にとっての環世界がいかに生成し、変容していくのかという問題についての議論と考察を行った。また、文学・哲学・科学技術社会論の視座から、環世界概念の可能性と限界が考察された。6月には田中（祐）が国際ワークショップ「原爆と医学史」を企画し、科学技術と暴力、歴史と記憶という問題系をめぐる学際的な議論が交わされた。また、11月には建築家の能作文徳氏をゲスト・スピーカーに迎え、建築や住環境という視座から環世界論を問い直す議論が展開された。

研究班員

所内：石井美保、藤原辰史、岩城卓二、岡田暁生、小関隆、田中雅一、王寺賢太、瀬戸口明久、立木康介、森本淳生、イリナ・ホルカ、池田さなえ、小川佐和子、藤井俊之、田中祐理子、篠原雅武、沈恬恬、日高由貴

学内：石川登（東南アジア研究所）、伊勢武史（フィールド科学教育研究センター）、山越言（アフリカ地域研究資料センター）、アンドレア百合フロレス漆間（地域研究統合情報センター）、朴美貞（国際高等教

育院）

学外：足立薫（京都産業大学）、井黒忍（大谷大学）、大浦康介（京都大学）、小柏裕俊（甲南女子大学）、岡安裕介（NPO 法人京都アカデメイア）、唐澤太輔（龍谷大学）、河田学（京都造形芸術大学）、久保昭博（関西学院大学）、近藤秀樹（大阪教育大学）、齊藤渉（東京大学大学院）、佐塚志乃（トロント大学）、鈴木洋仁（事業構想大学院大学）、茶園敏美（立命館大学）、橋本道範（滋賀県立琵琶湖博物館）、平野徹之（在ドイツ日本大使館）、堀口典子（テネシー大学）、松嶋健（広島大学大学院）、松村圭一郎（岡山大学大学院）、山崎明日香（日本大学）

研究実施内容

2017年

4月17日 趣旨説明・共同研究班「生と創造の探究—環世界の人文学」について

発表者：石井美保

発表者：藤原辰史

5月15日 病原菌の歴史・再考—人は知らないものを見ることかできるのか

発表者：田中祐理子

6月5日 魂の贈与論—「日本人」の環世界と第三項としての米— 発表者：岡安裕介（NPO 法人・京都アカデメイア）

6月19日 国際ワークショップ 原爆と医学史／The A-bomb and Medical History

発表者：Ran Zwigenberg

（ペンシルヴェニア州立大学）

発表者：中尾麻伊香（立命館大学）

発表者：Shi Lin Loh（慶應大学）

発表者：田中祐理子

7月3日 眩暈・本能・擬態〜カイヨワにおける人間／動物の連続性〜

発表者：近藤秀樹（大阪教育大学）

7月22日 生物学が語る「人間とは何か」

発表者：伊勢武史

（フィールド科学教育研究センター）

10月2日 石井美保著『環世界の人類学』合評会

人 文 学 報

コメンテーター：岩城卓二
コメンテーター：松村圭一郎
(岡山大学)

- 10月16日 意味の物語から意味生産のダイアグラムへ
発表者：佐藤淳二
- 11月6日 日本近代文学の〈リアルな〉動物たちと〈死〉—島崎藤村、志賀直哉、広津和郎—
発表者：イリナ・ホルカ
- 11月20日 障壁を見つけることから建築を考える
発表者：能作文徳 (東京工業大学)
- 12月18日 ライブニッツにおける「絶滅」の思想について
発表者：山崎明日香 (日本大学)
- 2018 年
- 2月19日 立憲制の運用と皇室財産—明治 20 年代の御料地「処分」
発表者：池田さなえ
- 3月9日 ミニ・シンポジウム
なぜ魚肥を研究するのか？—近世後期の気候変動と米・魚肥—
発表者：武井弘一 (琉球大学)
- 養殖された近代：五ヶ所湾真珠養殖場の戦間期
発表者：シェル・エリクソン

ウメサオ・スタディーの射程 班長 田中雅一
研究期間 2015 年 4 月—2018 年 3 月 (3 年度目)
研究実施状況

本研究会は以下の三つの活動からなる。2 と 3 は「みやこの学術資源プロジェクト」と連携して行っている。1) 研究発表：梅棹の関心や業績は多岐にわたる。これらを整理し、主要なテキスト読み、それに基づいて研究会を行う。2) 紙媒体資料のデジタル化：具体的には、人文科学研究所に残されている社会人類学講座の梅棹関係の書類を項目ごとに分類し、デジタル化し、整理している。デジタル化された文書のリストを作成、詳細な説明をつけた資料も作成中である (今年度終了予定)。3) テープ資料のデジタル化：京大在籍中の梅棹忠夫の活動は多岐にわたるが、そのひとつが近衛ロンドという研究

会・自主講義であった。当時の会合を記録していたオープンリールテープを、昨年も引き続き外注してデジタル化している。

研究班員

所内：石井美保、菊地暁、小池郁子 (研究員)、
Bill Mak (白眉)、Shen Tiantian (研究員)、
茶園敏美 (研究員)、河西瑛里子 (研究員)

学内：高嶋航 (文学研究科)、武田龍樹 (文学研究科)

学外：田辺明生 (東京大学)、飯田卓 (国立民族学博物館)、平井京之介 (国立民族学博物館)、飯塚真弓 (高崎経済大学)

研究実施内容

7 月 22 「共同体を記憶する——ユダヤ/「ジプシー」の文化構築と記憶の媒体」

物語化に抗する沈黙とアーカイブ——フランスのジプシー共同体における二種の記憶行為をめぐって

発表者：左地亮子 (京都大学)
饒舌さと沈黙のはざまで——ルーマニアのロマの音楽と家屋にみられる共同体の記憶

発表者：岩谷彩子 (京都大学)
クレズマー・リヴァイヴァル再考

発表者：黒田晴之 (松山大学)
過去の「探求」としてのアーカイブ——アルゼンチンのユダヤ人コミュニティの事例から

発表者：宇田川彩 (京都大学)
コメンテーター：岡真理 (京都大学)

司会：岩谷彩子 (京都大学)

11月8月 アフリカのジェンダー正義・宗教・女性器切除

アフリカ・サブ-サハラ地域におけるジェンダー正義と宗教 女性器切除 (FGM) をめぐって Gender Justice and Religion in Sub-Saharan Africa: The Case of Female Genital Mutilation

発表者：Prof. Rogaia Mustafa Abusharaf

(ジョージタウン大学 (カタール・キャンパス)) コメンテーター：中村香子 (京都大学) コメンテーター：宮脇幸生 (大阪府立大学) 司会：田中雅一 (京都大学)		研究班員 所内：井狩彌介，藤井正人 学内：横地優子 (文学研究科)，天野恭子 (白眉 センター)，八木綾子 (文学研究科・非常 勤講師)，川村悠人 (文学研究科・学振特 別研究員)，高橋健二 (文学研究科・博士 後期課程)	
11月11日	証言・告白・愁訴—医療と司法におけ る語りの現場から 傾聴と看取りのあいだに—大阪市西成 区の単身高齢者と向きあう訪問看護師 発表者：西 真如 (京都大学) ナラティブの亀裂，主体の揺れ—精神 分析を忘れないために 発表者：立木康介 (京都大学) 語りを鍛え，誘い，支援する—司法面 接の試み 発表者：仲真紀子 (立命館大学) 原爆症認定訴訟における体験の記憶と 政治 発表者：直野章子 (広島市立大学) コメンテーター：高木光太郎 (青山学院大学) コメンテーター：田中 雅一 (京都大学) 司会：田中 雅一 (京都大学) 司会：澤野美智子 (立命館大学)	学外：伊澤敦子 (国際仏教学大学院大学・図書館 職員)，永ノ尾信悟 (東京大学・名誉教授)， 大島智靖 (東京大学・研究員)，尾園 絢 一 (東北大学・専門研究員)，梶原三恵子 (東京大学)，小林正人 (東京大学)，柴崎 麻穂 (中村元東方研究所・専任研究員)， 手嶋英貴 (京都文教大学)，堂山英次郎 (大阪大学)，名和隆乾 (大阪大学)，西村 直子 (東北大学・非常勤講師)，山田智輝 (大阪大学・研究員)	
「ヴァードウーラ・シュラウターストラ」研究 班長 井狩彌介，藤井正人 研究期間 2015年4月—2018年3月 (3年度目) 研究実施状況 ヴァードウーラ・シュラウターストラの第8章 (アグニチャヤナ祭)を研究対象にして，井狩 (班 長)が校訂テキストと訳注を作成し，研究会で報告 するとともに，参加者全員によって検討を行った。 昨年度と同様に，テキストの会読を中心に，補説的 な研究を混ぜながら共同研究を進めた。今年度，こ れまでに検討したテキストの主題は，ウカー土器の 点火，1年間の潔斎，ガールハバティヤ煉瓦壇の構 築，アグニ火壇の設営準備などである。		研究実施内容 2017 年 4月28日 Vādhūla Śrautasūtra 8.11.14-8.13.1 発表者：井狩彌介 5月26日 Vādhūla Śrautasūtra 8.12.7-8.14.3 発表者：井狩彌介 6月23日 Vādhūla Śrautasūtra 8.14.4-21 発表者：井狩彌介 7月21日 Vādhūla Śrautasūtra 8.15.1-15 発表者：井狩彌介 10月27日 Vādhūla Śrautasūtra 8.15.16-8.16.11 発表者：井狩彌介 11月17日 Vādhūla Śrautasūtra 8.16.12-34 発表者：井狩彌介 12月15日 Vādhūla Śrautasūtra 8.17.1-8.18.15 発表者：井狩彌介 2018 年 1月12日 Vādhūla Śrautasūtra 8.18.16-8.19.30 発表者：井狩彌介 2月9日 Vādhūla Śrautasūtra 8.20.1-25 発表者：井狩彌介 3月9日 Vādhūla Śrautasūtra 8.21.1-8.22.1 発表者：井狩彌介	

近代京都と文化

班長 高木博志

研究期間 2017 年 4 月－2018 年 3 月（1 年度目）

研究実施状況

近代京都の文化に関して、特に民衆の生活・花街の性・差別の問題といった周縁性など「影」の部分も含めた重層的な像を導き出すべく、研究会を積み重ねた。全 7 回の研究会では、近代の京都をめぐる、花街の文化や性・差別の問題、美術・宗教・産業など多様な問題について議論した。9 月 24 日には向日市において巡見をおこない、同市が進める『向日市歴史的風致維持向上計画（歴まち計画）』の実態について学ぶとともに、研究会を行った。その結果、同様の試みを進めている他の自治体などと比較すると、同市が学問的にも高い水準で積極的に行政に働きかけを行っている自治体であることが確認された。また、12 月 10 日には京都文化博物館別館 2 階講義室にて、同館の展示ともリンクした研究会を行い、近代京都における絵画と社会に関する理解を深めた。

研究班員

所内：高木博志、岩城卓二、永田知之、イリナ・ホルカ、池田さなえ、高階絵里加

学内：田中智子（教育学研究科）、谷川穰（文学研究科）、木下千花（人間・環境学研究科）

学外：高久嶺之介、中川理（京都工芸繊維大学）、ジョン・グリーン（国際日本文化研究センター）、福家崇洋（富山大学）、藤原学（京都大学）、中野慎之（京都市）、大矢敦子（京都文化博物館）、清水重敦（京都工芸繊維大学）、植田彩芳子（京都文化博物館）、加藤政洋（立命館大学）、市川秀之（滋賀県立大学）、ステフィ・リヒター（ライプツィヒ大学東アジア研究所）、長志珠絵（立命館大学）、玉城玲子（茨木市）、原田敬一（佛教大学）、本康宏史（金沢星稜大学）、平山昇（九州産業大学）、日向伸介（静岡大学）、北野裕子（龍谷大学）

研究実施内容

2017 年

4 月 1 日 鉄斎が顕彰する国史発表者：高木博志

5 月 20 日 溝口健二と近代京都花街・遊郭の表象

発表者：木下千花

（京都大学 人間・環境学研究科）

7 月 15 日 裏寺町の空間文化誌

発表者：加藤正洋（立命館大学）

9 月 24 日 『向日市歴史的風致維持向上計画（歴まち計画）』を歩く

発表者：高木博志（所内）

発表者：玉城玲子（向日市）

10 月 28 日 染織祭創設（昭和 6 年）にみる昭和初期の京都－染織業界と京都市の動向を中心に－

発表者：北野裕子（龍谷大学）

11 月 18 日 大正・昭和期における「桃山御陵」参拝の動向

発表者：平山昇（九州産業大学）

「松江国際文化観光都市建設法」成立と小泉八雲 発表者：工藤泰子

（島根県立大学短期大学部）

12 月 10 日 「戊辰之役之図」と明治維新観

発表者：高木博志

太田喜二郎の画業と生涯

発表者：植田彩芳子

2018 年

1 月 20 日 「細雪」余香－谷崎潤一郎作詞京舞井上流「花の段」をめぐる

発表者：藤原 学（京都大学）

吉井勇と近代京都

発表者：細川光洋（静岡県立大学）

東方学研究部

『文史通義』研究

班長 古勝隆一

研究期間 2015 年 4 月－2018 年 3 月（3 年度目）

研究実施状況

本年度は 5 月 16 日に最初の研究班を開催して以来、おおむね 2 ヶ月に 3 回のペースで『文史通義』の会読を実施した。前年度に引き続き、活潑な議論を重ねており、問題が完全に解決してない部分については、議事録を作成し、後日あらためて検討することができるよう記録を保管してある。あらかじめ

担当者を決めて、会の数日前に訳注稿を各班員に配布し、班員が事前に目を通した上で研究班に出席する方法を採用したため、研究班では効率的に議論することができた。本研究班では『文史通義』内篇五巻を訳出することを目的としており、巻一の部分については『東方学報』91号に掲載済みで、現在、巻二の前半部分を『東方学報』92号に入稿中で、3月には出版される予定である。現在、巻三について訳出中。『東方学報』93号には、巻二の後半部分を入稿する予定である。

研究班員

所内：岩井茂樹、永田知之、藤井律之、白須裕之
 学内：宇佐美文理（大学院文学研究科）、道坂昭廣（大学院人間環境学研究科）、陳佑真（大学院文学研究科）、福谷彬（大学院文学研究科）、廖明飛（大学院文学研究科）
 学外：土口史記（岡山大学）、内山直樹（千葉大学）、竹元規人（福岡教育大学）、渡邊大（文教大学）、重田みち（京都造形芸術大学）、山口智弘（国立公文書館）、白石将人（中山大學）、趙ウニル（京都国立博物館）、田訪（湖南大学）

研究実施内容

2017年

- 5月16日 『文史通義』巻二「言公下」訳注
 『文史通義』巻二「言公下」訳注
 発表者：竹元規人（福岡教育大学）
 6月20日 『文史通義』巻二「言公下」訳注
 『文史通義』巻二「言公下」訳注
 発表者：竹元規人（福岡教育大学）
 7月4日 『文史通義』巻三「史徳」訳注
 7月18日 『文史通義』巻三「史徳」訳注
 『文史通義』巻三「史徳」訳注
 発表者：小島明子（お茶の水大学）
 9月19日 『文史通義』巻三「史釈」訳注
 『文史通義』巻三「史釈」訳注
 発表者：渡邊大（文教大学）
 10月3日 『文史通義』巻三「史注」訳注
 『文史通義』巻三「史注」訳注
 発表者：古勝隆一
 10月17日 『文史通義』巻三「伝記」訳注

『文史通義』巻三「伝記」訳注

発表者：陳佑真

（京都大学大学院文学研究科博士課程）

11月21日 『文史通義』巻三「習固」訳注

『文史通義』巻二「習固」訳注

発表者：白須裕之

12月5日 『文史通義』巻三「朱陸」訳注（前半）

『文史通義』巻三「朱陸」訳注（前半）

発表者：福谷彬

（京都大学大学院文学研究科博士課程）

12月19日 『文史通義』巻三「朱陸」訳注（後半）

『文史通義』巻三「朱陸」訳注（後半）

発表者：趙ウニル（京都国立博物館）

2018年

1月16日 『文史通義』巻三「書朱陸篇後」訳注

『文史通義』巻三「書朱陸篇後」訳注

発表者：古勝隆一

2月20日 『文史通義』巻三「文徳」訳注

『文史通義』巻三「文徳」訳注

発表者：重田みち

転換期中国における社会経済制度 班長 村上衛

研究期間 2016年4月－2018年3月（2年度目）

研究実施状況

本年度は3年計画の2年目にあたり、若手・中堅を中心として計16回の研究会を行った。毎回の参加者数は20～25名ほどで、本学文学研究科の院生をはじめとする若手の班員からも積極的な参加と発言を得た。本研究班は時代的・テーマ的に広い範囲を扱うため、中国近現代史研究者のみならず、明清史研究者や現代中国研究者、また人文科学系だけではなく、社会科学系の経済史研究者に参加していた。コメンテーターは関西に限定せず、首都圏や仙台・松江などの各地から報告テーマに即した研究者を招聘した。いずれの報告に関しても活発に討論が行われ、報告・討論の時間を合わせて3時間半近くになることも多かった。なお、本研究班では定例の研究会に加えて班員による出版書の書評会（2017年6月4日、岡本隆司著『中国の誕生 東アジアの近代外交と国家形成』）や、特別講演会（2017年6月24日、尤淑君（浙江大学歴史系副教

授)「清帝国对朝鮮の宗藩礼儀与名分秩序」)を行い、中国の「制度」をさらに多角的に研究する機会を設けた。

研究班員

所内：村上衛，石川禎浩，岩井茂樹，籠谷直人，望月直人，森川裕貴，木村可奈子，岩本真利絵，古松崇志，彭劍（招へい外国人学者），漆麟（日本学術振興会外国人特別研究員），安東強（招へい外国人学者）

学内：貴志俊彦（地域研究統合情報センター），小島泰雄（人間・環境学研究科），高嶋航（文学研究科），江田憲治（人間・環境学研究科），秋田朝美（経済学研究科），郭まいか（文学研究科），谷雪妮（文学研究科），都留俊太郎（文学研究科），李ハンキョル（文学研究科），凌鵬（社会学系），駒込武（教育学研究科），奈良岡聰智（法学研究科），彭鵬（人間・環境学研究科），王天馳（文学研究科），上島享（文学研究科），北村由美（附属図書館），太田出（人間・環境学研究科），瞿艷丹（文学研究科），潘藝心（人間・環境学研究科），鈴木秀光（法学研究科），呉舒平（法学研究科）

学外：山崎岳（奈良大学），石川亮太（立命館大学），上田貴子（近畿大学），易星星（兵庫県立大学），大坪慶之（三重大学），岡本隆司（京都府立大学），荻恵里子（京都府立大学），小野寺史郎（埼玉大学），片山剛（大阪大学），加藤雄三（専修大学），金丸裕一（立命館大学），蒲豊彦（京都橘大学），菊池一隆（愛知学院大学），木越義則（名古屋大学），楠原俊代（同志社大学），小林亮介（京都府立大学），兒玉州平（九州産業大学），柴田陽一（摂南大学），坂井田夕起子（桃山学院大学），城地孝（同志社大学），城山智子（東京大学），園田節子（兵庫県立大学），瀧田豪（京都産業大学），田口宏二郎（大阪大学），田中剛（帝京大学），団陽子（神戸大学），陳来幸（兵庫県立大学），富澤芳亜（島根

大学），豊岡康史（信州大学），西山喬貴（University College London），根無新太郎（京都府立大学），狭間直樹（京都大学），浜田直也（神戸女子大学），細見和弘（立命館大学），堀地明（北九州市立大学），松村光庸，丸田孝志（広島大学），三田剛史（明治大学），宮内肇（立命館大学），村尾進（天理大学），森時彦（京都大学），吉田建一郎（大阪経済大学），吉田豊子（京都産業大学），劉雯（兵庫県立大学），鷺尾浩幸（北海道大学），彭浩（大阪市立大学），篠原由華（同志社大学），奥村哲（首都大学東京），梶谷懐（神戸大学），箱田恵子（京都女子大学），濱島敦俊（大阪大学），平井健介（甲南大学），山本一（立命館大学），森万佑子（京都府立大）

研究実施内容

2017 年

- | | |
|--------|--|
| 4 月28日 | 清代同治朝巴県档案窃盜件の研究：従法制史，社会史到物質消費史的初探
発表者：巫仁恕
（中央研究院近代史研究所）
コメンテーター：伍躍
（大阪経済法科大） |
| 5 月19日 | 日中戦争期，寒羊・寿陽羊に関する日本の調査活動
発表者：吉田建一郎（大阪経済大）
コメンテーター：富澤芳亜
（島根大） |
| 6 月2日 | 消費都市から生産都市へ：計画経済期の南京と大廠
発表者：潘藝心
（総合人間（博士課程生））
コメンテーター：柴田陽一
（摂南大） |
| 6 月16日 | 政治論としての「後学」再考：ナショナリズムと自由・民主
発表者：滝田豪（京都産業大）
コメンテーター：森川裕貴 |
| 6 月30日 | 従反迷信到萬縁會：廣州到東南亞の城市救贖儀式
発表者：蔡志祥（香港中文大） |

コメンテーター：志賀市子 (茨城キリスト教大)		コメンテーター：井黒忍 (大谷大)	
7月7日	清朝外交と海牙公断 発表者：箱田恵子 (京都女子大) コメンテーター：松重充浩 (日本大)	3月9日	清朝の貿易管理と牌照・執照—アヘン戦争以前を中心に— 発表者：彭浩 (大阪市立大) コメンテーター：岩井茂樹
7月21日	総理衙門大臣の活動——対イギリス漢文史料の分析を中心に 発表者：萩恵里子 (京都府立大 (博士課程生)) コメンテーター：大坪慶之 (三重大)	3月16日	近代広東東部史—“戦う村落”から農民運動へ 発表者：蒲 豊彦 (京都橘大) コメンテーター：阿南友亮 (東北大)
9月29日	朝鮮外交の近代—宗属関係から大韓帝国へ— 発表者：森万佑子 (京都府立大 (日本学術振興会特別研究員)) コメンテーター：石川亮太 (立命館大)	東アジア古典文献コーパスの実証研究 班長 安岡孝一	
10月13日	琉球王国の西洋通事 発表者：張子康 (文 (博士課程生)) コメンテーター：横山伊徳 (東京大)	研究期間 2016年4月—2019年3月 (2年度目) 研究実施状況 平成29年度前半は、S式によって漢文のメタ文法 (文法の文法) を記述する手法に対し、Edwin George Pulleyblank の『Outline of Classical Chinese Grammar』の各例文を記述することで、その有効性の検証をおこなった。その結果、この手法は有効であるものの、作業のためのオーバーヘッドが大きく、Treebank 等の「量産化」には不適當な側面があることが判明した。そこで、平成29年度後半は、Universal Dependencies を用いて、漢文の依存文法解析をおこなう手法をも検討した。これに伴い、S式によるメタ記述と、Universal Dependencies による依存文法記述の、両方を同一の例文に適用し、その得失 (というか得手不得手) の比較をおこない続けている。	
10月27日	世紀転換期香港の衛生政策—中国人居住環境をめぐる議論を例として 発表者：小堀慎悟 (文 (博士課程生)) コメンテーター：福土由紀 (首都大)	研究班員 所内：Christian Wittern, 池田巧, 守岡知彦 学内： 学外：山崎直樹 (関西大学), 二階堂善弘 (関西大学), 師茂樹 (花園大学), 鈴木慎吾 (大阪大学)	
11月17日	アメリカ外交官と清議派の同床異夢—「越南問題」(1883年)における仲裁と国際世論喚起をめぐる試み 発表者：望月直人・非常勤 コメンテーター：三牧聖子 (高崎経済大)	研究実施内容 2017年	
12月1日	「満洲国」工業化をめぐる日満間非公式調整制度の創出 発表者：兒玉州平 (九州産業大) コメンテーター：平井健介 (甲南大)	4月21日 2017年度前半活動方針 5月12日 「晉克衛磁洛州」をどうするか 6月2日 Outline of Classical Chinese Grammar の例文検討 6月16日 Outline of Classical Chinese Grammar	
12月15日	清代嘉慶・道光年間における北京の回漕問題 発表者：堀地 明 (北九州市立大) コメンテーター：田口宏二郎 (大阪大)		
2018年			
1月26日	土地改革前夜、土地利用に対する共同規制と村の領域の存在形態：広東省高要県金東围を中心に 発表者：片山剛 (大阪大)		

- の例文検討
- 7月7日 Universal Dependencies Tools
- 7月21日 Outline of Classical Chinese Grammar
の例文検討
- 9月8日 Outline of Classical Chinese Grammar
の例文検討
- 9月22日 漢文 Universal Dependencies(仮)
- 10月6日 Outline of Classical Chinese Grammar
の例文検討
- 10月20日 SVG による CoNLL-U ヴューワ
- 11月17日 漢文 Universal Dependencies(仮)
- 12月1日 MeCab-Kanbun to CoNLL-U
- 12月15日 MeCab-Kanbun to CoNLL-U
- 2018 年
- 1月12日 SVG による ictree ヴューワ
- 1月27日 人文科学とコンピュータ第 116 回研究
発表会
- 1月28日 人文科学とコンピュータ第 116 回研究
発表会『古典中国語 Universal
Dependencies への挑戦』

東西知識交流と自国化—汎アジア科学文化論

班長 武田時昌

研究期間 2017 年 4 月—2020 年 3 月 (1 年度目)

研究実施状況

東アジア世界の科学文化を構造的に把握するため
に、異国間における科学知識の接触、受容と自国化
の諸様相にスポットを当て、汎アジア的視点から多
角的な考察を試みた。本年度は、国内外から招聘し
た研究者や班員の研究発表会を行いながら、仏教天
文学や中国占術書の読書ワークショップを並行して
開催した。会読テキストは、仏教天文学では『宿曜
経』、中国占術書では陰陽五行・日書関連の出土簡
帛および『卜筮元龜』である。10 月 25-28 日には、
宇宙ユニット、白眉センターとの共催で、『天と地
の科学—東と西の出会い』を総合テーマとする大規
模な国際会議を開催した。また、8 月、12 月には近
年に出土した老官山医簡の調査チームの研究者 (8
月は成都中医薬大学から 4 名、12 月は中国中医科
学院中国医史文献研究所より 4 名、成都文物考古研
究所より 1 名) を招聘し、研究成果や最新情報を講

演してもらい、中国医学のパラダイム形成をめぐっ
て週及的な討議を繰り広げた。

研究班員

所内：武田時昌、Bill Mak、高井たかね、宮紀子

学内：上田真啓 (文学研究科・非常勤講師)、伊
藤裕水 (文学部・非常勤講師)、伊藤令子
(文学研究科・OD)、瞿艷丹 (文学研究
科・博士後期課程)、成高雅 (人間・環境
学研究科・博士後期課程)、趙ウニル (文
学研究科・O.D.)、劉青 (人間・環境学研
究科・博士後期課程)

学外：高橋あやの (関西大学)、宮島一彦 (中之
島科学研究所・研究員、同志社大学・元
教授)、清水浩子 (大正大学)、矢野道雄
(京都産業大学・名誉教授)、梅林誠爾
(熊本県立大学・名誉教授)、白雲飛 (大
阪府立大学・客員研究員)、平岡隆二 (熊
本県立大学・准教授)、岡田正彦 (天理大
学・教授)、吉田薫 (東亜天文学会)、
佐々木聡 (大阪府立大学・特別研究員)、
福島雅淳 (神戸学院大学・博士後期課程)、
名和敏光 (山梨県立大学)、古藤友子 (国
際基督教大学)、宮崎順子 (関西大学・非
常勤講師)、奈良場勝 (暁星高校・講師)、
相川佳予子 (奈良女子大学・元教授)、安
部郁子 (勸研医会・研究員、図書館長)、
新井晋司 (同志社女子大学・非常勤講師)、
家本旬二 (鍼灸師)、猪飼祥夫 (北里大
学)、池内早紀子 (大阪府立大学・修士課
程)、石井行雄 (北海道教育大学釧路校・
准教授)、岩間真知子 (日中茶文化研究
家)、浦山あゆみ (大谷大学)、大形徹
(大阪府立大学・教授)、王財源 (関西医
療大学)、桐浴眞智子 (大阪医科大学附属
病院・鍼灸師)、熊野弘子 (関西大学・非
常勤講師)、古藤友子 (国際基督教大学)、
小林博行 (中部大学准教授)、坂井里奈
(神戸学院大学・非常勤講師)、島山奈緒
子 (関西医療大学・非常勤講師)、高田宗
平 (大阪府立大学・客員研究員)、多田伊
織 (大阪府立大学・客員研究員)、塚本明

日香（岐阜大学）、張莉（大阪教育大学）、
 豊田裕章（大阪府立豊中支援学校・教諭）、
 長野仁（森ノ宮医療大学大学院・教授）、
 中吉隆之（関西医療大学）、奈良上真（大
 阪医療技術学園専門学校・教員）、橋本敬
 造（関西大学・名誉教授）、濱口昭宏（医
 学統合研究会・代表）、早川尚志（大阪大
 学）、林みどり（関西医療大学・非常勤講
 師）、平地治美（千葉大学・非常勤講師）、
 松岡尚則（公益財団法人研医会・研究員）、
 三鬼丈知（大谷大学）、光平有希（国際日
 本文化研究センター・研究員）、横大路綾
 子（大阪府立大学）、吉村美香（愛知淑徳
 大学）、梁永宣（兵庫医科大学）、渡邊真
 弓（関西医療大学・研究員）、Beatriz
 Puente-Ballesteros（マカオ大学・助教）

研究実施内容

2017 年

4 月 9 日 後鳥羽上皇の水無瀬離宮の構造と風水
 思想との関わりについて
 発表者：豊田裕章
 （大阪府立豊中支援学校教諭）
 近代中国における結核知識伝来
 発表者：瞿艷丹
 （京大文学研究科博士課程）
 近代日本の音楽療法：東西知識交流一
 側面 発表者：光平有希
 （国際日本文化研究センター研究員）

5 月 17 日 宿曜経研究会
 釈円通著述研究
 発表者：小林博行（中部大学）

6 月 27 日 欧米遊学報告：NY 大学・ブラウン大
 学共同研究に参加して
 発表者：Bill Mak
 （京大人文研特定准教授）
 「地有四游」管窺 発表者：伊藤裕水
 （京大文学部非常勤講師）
 江戸期のヴィジュアルカルチャー
 発表者：尾鍋智子
 （大阪大学未来戦略機構特任准教授）
 從望氣和風雨占傳統到明末清初の“氣

象學”：方氏學派的個案研究（From
 Weather-Based Divination Traditions
 to Meteorological Discourses in Early
 Modern China: A Case Study of the
 Fang School） 発表者：張瓊
 （アメリカ、ウェイクフォレスト大准
 教授、人文研招へい研究者）

8 月 25 日 老官山漢墓医簡《六十病方》病名釈義
 （老官山漢墓の医簡「六十病方」の病
 名釈義） 発表者 和中浚 成都中医
 薬大学中医薬博物館元館長、研究員
 老官山出土医簡診法条文研究（老官山
 で出土した医簡と診断法の条文研究）
 発表者 李継明 成都中医薬大学国学
 院院長、研究員
 老官山漢墓人体経穴漆人穴位数量及分
 布特点研究（老官山漢墓の経脈漆雕人
 形のツボ量と分布特徴について）
 発表者 周興蘭 成都中医薬大学図書
 館古籍部副主任、助理研究員
 富士川游文庫の分類目録化について
 発表者：高津孝
 （鹿児島大学法文学部、教授）

10 月 25 日 Kyoto University International Sym-
 posium: International Conference on
 Traditional Sciences in Asia 2017:
 East-West Encounter in the Science of
 Heaven and Earth（アジア伝統科学国
 際会議 2017『天と地の科学—東と西
 の出会い』）
 How astral science crosses cultural
 and social boundaries: The Geneva
 sphere as an astronomical consumer
 item in early Edo Japan
 発表者：Christopher CULLEN
 （Emeritus Professor and Director,
 Needham Research Institute and
 Darwin College, University of
 Cambridge, UK）
 The role of culture in shaping scientific
 concepts 発表者：Krishnamurti

RAMASUBRAMANIAN
(Professor, Department of Humanities
and Social Sciences, Indian Institute of
Technology Bombay, India)

A re-evaluation of some claims for
Mesopotamian influence on East Asian
astral science 発表者: John STEELE
(Professor and Chair, Department of
Egyptology and Assyriology, Brown
University, USA)

司会: Marcus WERNER
(京都大学白眉センター・助教)

Unusual Babylonian astronomical
diary -99C in the light of The Book of
the Laws of Countries
発表者: Yasuyuki MITSUMA

三津間康幸
(Postdoctoral Fellow, Graduate School
of Arts and Sciences, University of
Tokyo, Japan)

司会: Marcus WERNER
(京都大学白眉センター・助教)

Scholarly exchanges in the Marāgha
Observatory: reassessment of 'Urḍī's
impact on Marāgha associates

発表者: Taro MIMURA 三村太郎
(Associate Professor, Graduate School
of Integrated Arts and Science,
Hiroshima University, Japan)

司会: Marcus WERNER
(京都大学白眉センター・助教)

The forgotten transmission—Arabic
and Persian cosmological knowledge
in late imperial China

発表者: Dror WEIL
(Postdoctoral Fellow, Max Planck
Institute for the History of Science,
Berlin, Germany)

司会: Marcus WERNER
(京都大学白眉センター・助教)

The perception of heaven and earth in

Indian astronomy and its sequel in the
conception of planetary models

発表者: Krishnamurti

RAMASUBRAMANIAN
(Professor, Department of Humanities
and Social Sciences, Indian Institute of
Technology Bombay, India)

司会: 矢野道雄

(京都産業大学・名誉教授)

Maṇḍalavākyas: an intermediate nu-
merical table used in the computation
of planetary longitudes

発表者: R. Venketeswara PAI

(Assistant Professor, Indian Institute
of Science Education and Research,
Pune, India)

司会: 矢野道雄

(京都産業大学・名誉教授)

Analysing the sine computations in
an anonymous commentary on
Parameśvara's Goladīpikā 2

発表者: Sho HIROSE 廣瀬匠

(Postdoctoral Researcher,
Department of Humanities, Social and
Political Sciences, Swiss Federal
Institute of Technology (ETH)
Zurich, Switzerland)

司会: 矢野道雄

(京都産業大学・名誉教授)

Religious festivals of Indian and
Persian calendars as transmitted by
al-Bīrūnī 発表者: Noémie VERDON
(Teaching Fellow, School of Buddhist
Studies, Philosophy and Comparative
Religions, Nalanda University, India)

司会: 矢野道雄

(京都産業大学・名誉教授)

10月26日 Kyoto University International Sym-
posium: International Conference on
Traditional Sciences in Asia 2017:
East-West Encounter in the Science of

Heaven and Earth (アジア伝統科学国際会議 2017『天と地の科学—東と西の出会い』)

Greco-Babylonian astral science in Asia: patterns of dissemination and transformation

発表者: Bill MAK 麥文彪

(Associate Professor, Hakubi Center and Institute for Research in Humanities, Kyoto University, Japan)

司会: John STEELE

(Professor and Chair, Department of Egyptology and Assyriology, Brown University, USA)

Visualization of the heavens

発表者: Sonja BRENTJES

(Research Scholar, Max Planck Institute for History of Science, Berlin, Germany)

司会: John STEELE

(Professor and Chair, Department of Egyptology and Assyriology, Brown University, USA)

The eclipse dragon in medieval Syriac and Manichaean sources

発表者: Adrian PIRTEA

(Research Assistant, Institute of Greek and Latin Languages and Literatures, Free University of Berlin, Germany)

司会: John STEELE

(Professor and Chair, Department of Egyptology and Assyriology, Brown University, USA)

Geometrizing Chinese astronomy?

発表者: Yoichi ISAHAYA 諫早庸一

(Postdoctoral Researcher, Faculty of Humanities, Hebrew University of Jerusalem, Israel)

司会: John STEELE

(Professor and Chair, Department of

Egyptology and Assyriology, Brown University, USA)

Stars in colors: the Song of the Sky Pacers and its star charts revisited

発表者: SHI Yunli 石雲里

(Professor, Department of History of Science and Scientific Archaeology, University of Science and Technology of China, Hefei, China)

司会: Christopher CULLEN

(Emeritus Professor and Director, Needham Research Institute and Darwin College, University of Cambridge, UK)

Remarks on the foreign/expatriate leadership of the Tang Astronomical Bureau

発表者: Daniel P. MORGAN (Researcher, CNRS, SPHERE, University Paris Diderot, France)

司会: Christopher CULLEN

(Emeritus Professor and Director, Needham Research Institute and Darwin College, University of Cambridge, UK)

Managing heaven and earth: imperial mathematics in early Qing China

発表者: Catherine JAMI

(Professor and Research Director, CNRS, EHESS, Paris, France)

司会: FUNG Kam-Wing 馮錦榮

(Professor, Institute for Humanities and Social Sciences, University of Hong Kong, China)

Western learning, examinations, and Neo-Confucianism: a study of the astronomical section in Ying Huiqian's Xingli Dazhong (性理大中)

発表者: CHU Pingyi 祝平一

(Research Fellow, Institute of History and Philology, Academia Sinica, Taipei, Taiwan)

司会：FUNG Kam-Wing 馮錦榮
(Professor, Institute for Humanities
and Social Sciences, University of
Hong Kong, China)

Heaven vs. empire: the calendrical
reform of Chosŏn Korea in the mid-
seventeenth century

発表者：Jongtae LIM 林宗台
(Professor, College of Natural
Sciences, Seoul National
University, Korea)

司会：FUNG Kam-Wing 馮錦榮
(Professor, Institute for Humanities
and Social Sciences, University of
Hong Kong, China)

A reception history of the Western
Calendrical System (Shixianli 時憲曆)
in Korea

発表者：Yong Hoon JUN 全勇勳
(Associate Professor, Faculty of
Humanities, Academy of Korean
Studies, Seongnam, Korea)

司会：FUNG Kam-Wing 馮錦榮
(Professor, Institute for Humanities
and Social Sciences, University of
Hong Kong, China)

10月27日 Kyoto University International Sym-
posium: International Conference on
Traditional Sciences in Asia 2017:
East-West Encounter in the Science of
Heaven and Earth (アジア伝統科学国
際会議 2017 『天と地の科学 —東と西
の出会い』)

Deciphering Aristotle with Chinese
medical cosmology: Nanban Unkiron
南蛮運氣論 and the reception of Jesuit
cosmology in 17th century Nagasaki

発表者：Ryuji HIRAOKA 平岡隆二
(Associate Professor, Faculty of
Letters, Prefectural University of
Kumamoto, Japan)

司会：Dagmar SCHÄFER
(Max Planck Institute for History of
Science, Berlin, Germany)

Reading heaven's mind: discourses on
astral and meteorological portents in
early-18th century Japan

発表者：Matthias HAYEK
(Associate Professor, Department
of East Asian Languages and Civi-
lizations, University Paris Diderot,
France)

司会：Dagmar SCHÄFER
(Max Planck Institute for History of
Science, Berlin, Germany)

From Taiyi 太一 to Heaven 天: a
com-parison of the astronomy
systems of Xing Yunlu 刑雲路 and
Xue Fengzuo 薛鳳祚

発表者：ZHU Haohao 朱浩浩
(Postdoctoral Researcher, School of
Philosophy, Wuhan University,
China)

司会：Dagmar SCHÄFER
(Max Planck Institute for History
of Science, Berlin, Germany)

Deciphering earth and heaven during
the Edo Period

発表者：Javier PEREZ-JARA
(Assistant Professor, International
Business School, Beijing Foreign
Studies University, China)

司会：Dagmar SCHÄFER
(Max Planck Institute for History of
Science, Berlin, Germany)

The encounter and crossover of
astronomical knowledge from east and
west in late Ming China

発表者：Keizo HASHIMOTO 橋本敬造
(Professor Emeritus, Kansai
University, Osaka, Japan)
司会：Jongtae LIM 林宗台

(Professor, College of Natural Sciences, Seoul National University, Korea)

Mapping East Asia: transmission of Western surveying in China, Japan and Korea (1580-1740)

発表者: FUNG Kam-Wing 馮錦榮
(Professor, Institute for Humanities and Social Sciences, University of Hong Kong, China)

司会: Jongtae LIM 林宗台
(Professor, College of Natural Sciences, Seoul National University, Korea)

'Cosmograph'-tailored maps in late East Asian cartography

発表者: Vera DOROFEEVA-LICHT MANN
(Researcher, CNRS, EHESS, Paris, France)

司会: Jongtae LIM 林宗台
(Professor, College of Natural Sciences, Seoul National University, Korea)

Two newly discovered ancient Chinese globes in Europe

発表者: WANG Qianjin 汪前進
(Professor, School of Humanities, University of Chinese Academy of Sciences, Beijing, China)

司会: Jongtae LIM 林宗台
(Professor, College of Natural Sciences, Seoul National University, Korea)

Seismology in Meiji Japan: emergence of historical earthquake studies

発表者: Kazuyuki ITO 伊藤和行
(Professor, Graduate School of Letters, Kyoto University, Japan)

司会: 家森俊彦
(京都大学理学研究科・教授)

Analyzing the early 19th century's geomagnetic declination in Japan from Tadataka Inoh's Santou-Houi-Ki

発表者: Motohiro TSUJIMOTO
辻本元博

(Member, Japan Cartographers Association, Sakai, Japan)

司会: 家森俊彦

(京都大学理学研究科・教授)

Extreme space weather events as seen in the historical geomagnetic records of Colaba, India

発表者: Bhaskara VEENADHARI

(Professor, Indian Institute of Geomagnetism, Navi Mumbai, India)

司会: 家森俊彦

(京都大学理学研究科・教授)

Great auroral displays during the Carrington Magnetic Storm: a cross-roads of East Asian history and Western geoscience

発表者: Hisashi HAYAKAWA

早川尚志

(JSPS Research Fellow, Graduate School of Letters, Osaka University, Japan)

司会: 家森俊彦

(京都大学理学研究科・教授)

11月5日 東アジアの歴史書にみられる天文記録

発表者: 早川尚志

(大阪大学文学研究科・D1)

佐田介石の学問と思想

発表者: 梅林誠爾

(熊本県立大学・名誉教授)

Revisiting Xue Fengzuo's System of Science within the New Horizon of Confucianism

発表者: 朱 浩浩 (武漢大学)

11月6日 宿曜経研究会

12月9日 新出土医学簡講演会: 成都天回鎮老官山漢墓出土医簡

人 文 学 報

- 天回漢墓医簡和医药文物的重要发现 (天回漢墓医簡と医薬文物に関する重要な発見) 発表者: 柳 長華 (中国中医科学院教授・中国医史文献研究所原所長) 3月27日 宿曜経研究会
- 天回漢墓医簡中“通天”的涵義與五色脈診 (天回漢墓医簡における「通天」の意味と五色脈診について) 発表者: 顧 漫 (中国中医科学院副研究員・中国医史文献研究所) 3月27日 宿曜経研究会
- 天回漢墓医簡整理方法舉隅 (天回漢墓医簡の整理・研究方法) 発表者: 周 琦 (中国中医科学院助理研究員・中国医史文献研究所) 3月27日 宿曜経研究会
- 天回醫簡罕見醫學名物制度考證舉隅 (天回漢墓医簡における典章制度と名物訓詁の関連問題について) 発表者: 劉 陽 (中国中医科学院助理研究員・中国医史文献研究所) 3月27日 宿曜経研究会
- 成都老官山墓主族屬考 (老官山漢墓の墓主の身分についての探究) 発表者: 謝涛 (成都文物考古研究院副研究員・成都市文物考古工作隊) 3月27日 宿曜経研究会
- 2018年 2月11日 医書に見られる人神について 発表者: 島山奈緒子 (京都大学人文科学研究所・非常勤研究員) 3月3日 宿曜経研究会
- 生薬探偵の冒険 発表者: 濱口昭宏 (おけらの会) 3月4日 宿曜経研究会
- 近現代における富山売薬の変容 発表者: 二谷智子 (愛知学院大学経済学部・准教授) 3月4日 宿曜経研究会
- 2月12日 宿曜経研究会 4月4日 雲岡石窟第十七洞 発表者: 高橋早紀子 (PD)
- 3月3日 宿曜経研究会 4月18日 雲岡石窟第十七洞 発表者: 高橋早紀子 (PD)
- 3月4日 明清時代の占病文献とその流布状況—占夢書・通書・日用類書・通俗道教との関わりから— 発表者: 佐々木聡 (大阪府立大学・特別研究員) 宋代の葬儀をめぐる諸問題 発表者: 松本浩一 (筑波大学・教授)
- 北朝石窟寺院の研究 班長 岡村秀典 研究期間 2015年4月—2018年3月 (3年度目) 研究実施状況 水野清一・長廣敏雄『雲岡石窟』(全16巻32冊, 1951~1956年)図版解説の会読を隔週の研究会で実施し, 本年度は第13洞から第16洞までを検討した。さらに水野清一・長廣敏雄『龍門石窟の研究』(座右宝刊行会, 1941年)の中国語版を出版するのに合わせ, 当研究所に所蔵する龍門二十品(北魏造像記)の拓本を整理し, その会読を隔週の研究会で実施した。その成果報告は2017年度の『東方学報』に掲載する予定である。また, 当研究所と中国社会科学院考古研究所との共同編集により中国の科学出版社から刊行している『雲岡石窟』中英語版のうち第二期分(第8~第16巻)までは2015年度に出版された。新たに執筆編集する第三期(第17~20巻)の日本語版4巻9冊は2016年6月に刊行され, 中国語版は2017年度に刊行の予定である。
- 研究班員 所内: 安岡孝一, 稲本泰生, 高橋早紀子 学内: 内記理 (文化財総合研究センター) 学外: 田中健一 (大阪大谷大学), 外山潔 (泉屋博古館), 齋藤龍一 (大阪市立美術館), 山名伸生 (京都精華大学), 向井佑介 (京都府立大学), 大西磨希子 (佛教大学), 石松日奈子 (清泉女子大学), 濱田瑞美 (横浜美術大学), 佐藤智水 (龍谷大学), 田林 啓 (白鶴美術館), 黄 盼 (京都府立大学)
- 研究実施内容 2017年

5月16日	雲岡石窟第十七洞 発表者：高橋早紀子（PD）	前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア 班長 稲葉 穰
5月30日	雲岡石窟第十七洞 発表者：高橋早紀子（PD）	研究期間 2015年4月－2018年3月（3年度目）
	雲岡石窟第13-4窟測絵報告 発表者：陳豪（研究生）	研究実施状況
6月6日	雲岡石窟第十七洞 発表者：高橋早紀子（PD）	本研究班は、中央アジア、南アジア、西アジアのフロンティアとしての「歴史的アフガニスタン」およびその周辺において何が起きてきたのか、そこを越えて移動した人やモノはフロンティアを超えた先でいかに機能したのかを、文献資料や出土資料をもとに検討し、「前近代におけるグローバリズム」がいかなる実態を持っていたのかを明らかにすることを目的として計画された。本年はアフガニスタンの周辺地域における多様な文化交流に関する研究報告と並んで、9世紀にAbu Dulafによって執筆されたアラビア語の旅行記である『第二書簡』会読を行ったが、班長の長期海外出張のため9月以降は休会とし、次年度に研究班を延長して成果のとりまとめを行う予定である。
6月20日	雲岡石窟第十七洞 発表者：高橋早紀子（PD）	研究班員
7月4日	雲岡石窟第十七洞 発表者：高橋早紀子（PD）	所内：船山徹、稲本泰生、中西竜也、岩尾一史、宮本亮一（特別研究員）
7月18日	雲岡石窟第十七洞 発表者：高橋早紀子（PD）	学内：井谷鋼造（文学研究科）、吉田豊（文学研究科）、帯谷知可（地域研究統合情報センター）、今松泰（アジア・アフリカ地域研究研究科）、内記理（文化財総合研究センター）、杉山雅樹（文学研究科）、大津谷馨（文学研究科博士後期課程）
9月19日	毘沙門天脚下の地天・二鬼の成立と展開 発表者：高橋早紀子（PD）	学外：和田郁子（岡山大学）、川本正知（奈良学園大学）、入澤崇（龍谷大学）、小野浩（京都橘大学）、真下裕之（神戸大学）、岩井俊平（龍谷大学）、井上陽（龍谷大学）、影山悦子（奈良文化財研究所）、上枝いづみ（龍谷大学）、田中悠子（ロンドン大学）
9月22日	漢訳『華嚴經』の原典『アヴァタンサカ・スートラ』の仏身論と宇宙論について 発表者：外村中（ビュルツブルク大学）	研究実施内容
10月3日	雲岡石窟第十八洞 発表者：高橋早紀子	2017年
10月17日	雲岡石窟第十八洞 発表者：高橋早紀子	4月14日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア Abū Dulaf 第二書簡会読 発表者：大津谷馨（京都大学文学研究科）
11月7日	雲岡石窟第十八洞 発表者：高橋早紀子	
12月5日	雲岡石窟第十八洞 発表者：高橋早紀子	
12月19日	雲岡石窟第十八洞 発表者：高橋早紀子	
2018年		
1月16日	雲岡石窟第十八洞 発表者：高橋早紀子	
1月30日	雲岡石窟第十八洞 発表者：高橋早紀子	
2月6日	雲岡石窟第十八洞 発表者：高橋早紀子	
3月19日	雲岡石窟の初期造像―曇曜五窟の仏龕を中心として 発表者：岡村秀典	
		4月28日 前近代ユーラシアにおけるフロンティア

人 文 学 報

アとトランス・フロンティア Abu Dulaf 第二書簡会読 発表者：大津谷馨 (京都大学文学研究科)		コメンテーターとして、班外部の複数の専門家を招聘して有益なコメントを得るとともに、招へい外国人学者を中心とする中国の複数の研究者からも多くの知見を得ている。それらを通じて、より高度な水準の研究成果を生み出せるよう尽力し、すでに一定の成果を挙げつつあるところである。	
5月26日	前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア 前イスラーム時代トハリスターンの社会 発表者：宮本亮一 (日本学術振興会)	研究班員	所内：石川禎浩、岩井茂樹、村上衛、森川裕貴、漆麟(日本学術振興会外国人特別研究員)、安東強(招へい外国人学者)、彭剣(外国人招へい学者)
6月9日	前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア 2017年3月イーラーンでの碑刻銘文調査から 発表者：井谷鋼造 (京都大学文学研究科)		学内：江田憲治(人間環境学研究科)、瞿艶丹(文学研究科)、谷雪妮(文学研究科)、高嶋航(文学部)、李ハンキョル(文学研究科)、祝世潔(文学研究科)
7月14日	前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア ガンダーラ地方出土浮彫画像帯の分析 発表者：内記理 (京都大学総合文化財研究センター)		学外：小野寺史郎(埼玉大)、韓燕麗(関西学院大)、柴田陽一(摂南大)、島田美和(慶應義塾大)、瀬戸宏(摂南大)、瀬辺啓子(仏教大)、田中仁(大阪大)、谷川真一(神戸大)、団陽子(神戸大)、中村元哉(津田塾大)、丸田孝志(広島大)、三田剛史(明治大)、水羽信男(広島大)、山崎岳(奈良大)、楊韜(仏教大)、吉田豊子(京都産業大)、李冬木(仏教大)、緒形康(神戸大)、楠原俊代(同志社大)
7月28日	前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア 16世紀カシミールのサンスクリット文献におけるモグール/ムガル 発表者：小倉智史 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)	研究実施内容	
毛沢東に関する人文的研究 班長 石川禎浩 研究期間 2015年04月-2018年03月(2年度目) 研究実施状況		2017年	
1年目、2年目に蓄積した成果を生かしつつ、研究目的の達成および研究成果のとりまとめに向けた活動を進めた。活動形式はこれまで同様、隔週開催の研究班例会を中心とし、まず報告者が1時間半程度の報告を行ったあと、コメンテーターが30分程度の批評を加え、その上で全体討論を実施するという形式を取った。報告用レジュメを事前に班員に配布していることもあり、活発な議論がなされたこともこれまで同様であるが、本年度は3年目ということもあり、これまでの検討・議論の成果をふまえた、より緻密な考察に基づく報告が多数なされた。また、		4月21日	毛沢東とスポーツ(2) 発表者：高嶋航 文 コメンテーター：村上 衛
		5月12日	現代中国政治における毛沢東経路の発生(歴史決議、82年憲法と毛沢東思想の再定義) 発表者：田中仁 (大阪大) コメンテーター：江田憲治 (総合人間)
		5月26日	遊撃戦争とは何か?——1929年中央軍事部の論争をめぐって 発表者：江田憲治 (総合人間) コメンテーター：長堀祐造

- (慶應義塾大)
- 6月9日 毛沢東の継統革命論再考——文化大革命のスターリン主義的起源
発表者：谷川真一（神戸大）
コメンテーター：森川裕貫
- 6月23日 『全連邦共産党（ボ）歴史小教程』と毛沢東の党史
発表者：石川禎浩
コメンテーター：瀬戸宏（摂南大）
- 10月6日 毛沢東統治下の経済学者—朱紹文の経済学と新民主主義—
発表者：三田剛史（明治大）
コメンテーター：高嶋航（文）
- 10月20日 毛沢東時代の知識分子像——楠原俊代『韋君宜研究』を中心に
発表者：瀬戸宏（摂南大）
コメンテーター：水羽信男（広島大）
- 11月10日 毛沢東の伝記・物語の成立と展開：日中戦争期から建国初期を中心に
発表者：丸田孝志（広島大）
コメンテーター：森川裕貫
- 11月24日 大躍進と日本：日本人の中国観と毛沢東観
発表者：村上衛
コメンテーター：谷川真一（神戸大）
- 12月8日 毛沢東と映画
発表者：韓燕麗（関西学院大）
コメンテーター：緒形康（神戸大）
- 2018年
- 1月19日 河上肇と大塚有章——『自叙伝』と『未完の旅路』を中心に
発表者：李冬木（仏教大）
コメンテーター：狭間直樹（京都市大（名誉教授））
- 2月2日 中華人民共和国初期の「記念節日資料」中の毛沢東略伝について
発表者：小野寺史郎（埼玉大）
コメンテーター：岩井茂樹
- 2月16日 「ハリコの虎」から「精神原子弾」へ——毛沢東統治下の核をめぐる言説
発表者：森川裕貫
- コメンテーター：漆麟（日本学術振興会外国人特別研究員）
- 3月2日 1970年代の香港における左派思想——毛沢東派『盤古』の思想空間
発表者：中村元哉（津田塾大）
コメンテーター：鈴木将久（一橋大）
- 12月22日 毛沢東「文芸講話」の文芸理論と文芸政策論の構築と機能をめぐって—「革命文学」論争（1928）から 胡風批判（1955）まで
発表者：工藤貴正（愛知県立大）
コメンテーター：長堀祐造（慶應義塾大）
- 楽しんで読む戦国竹書—中国古代の基礎史料
班長 浅原達郎
- 研究期間 2016年4月—2019年3月（2年度目）
研究実施状況
学生班員を対象としたこれまでの講義風の形式はついに成り立たなくなった。みなめでたく社会に巣立っていったためで、よろこばしいことであるが、研究班としては、方針を変更せざるをえない。まず、シニアの公式班員による会合を月に一度程度開くことにする。また、中心課題の「楽しんで読む戦国竹書」については、班長ひとりが、これまで通り週に一度を目安に進行させる。受講者のいない講義のようなことになるが、記録を残すために、録画をとるのもこれまで通りなので、やっていることはそれほど変わらない。シニア班員の会合では、ひとり研究会の動画を流しながら、自由に議論してもらう。毎回の詳細については、ウェブサイト上の記録にゆずるが、『清華大学蔵戦国竹簡』第三冊の赤鵠之集湯之屋から始めて、第四冊の筮法、別卦、算表を読み、第五冊の厚父にとりかかったところである。また、『日古』第二十八号（十月六日）を発行し、上海博物館蔵楚簡の慎子曰恭儉、用日についての読書札記、清華大学蔵簡の周公之琴舞にかかわる論文を掲載した。
- 研究班員
所内：宮紀子、守岡知彦
学外：森賀一恵（富山大学）

中国在家の教理と經典

班長 船山 徹

発表者：ウィッテルン, クリスティアン

研究期間 2016 年 4 月－2020 年 3 月 (2 年度目)

2018 年

研究実施状況

1 月18日 魏収「齊三部一切經願文」、王褒「周
經藏願文」の訳注作成

発表者：桐原 孝見(龍谷大学)

2 月2日 隋煬帝「寶臺經藏願文」(1) の訳注作
成 発表者：古勝隆一

中国の南朝仏教における在家の活動を具体的に知るため、今年は『広弘明集』巻 28 悔罪篇に関して前年度に扱えなかった箇所と巻 22 法義篇の会読を集中的に行った。具体的には、「沙羅齋懺文」、「無礙會捨身懺文」、「因縁無性論序」、「性法自然論」、「因縁無性論」の会読を終えた。今後、引き続き巻 22 の「齊三部一切經願文」、「周經藏願文」、およびそれ以下の会読を進めする予定である。

研究班員

所内：船山徹、稲本泰生、稲葉穰、ウィッテルン、
クリスティアン、古勝隆一、中西竜也
学内：趙ウニル(大学院文学研究科)
学外：石垣明貴紀(龍谷大学)、桐原孝見(龍谷
大学)、中西久味(新潟大学)、松岡寛子
(仏教伝道教会)、村田みお(近畿大学)

研究実施内容

2017 年

4 月7日 『廣弘明集』巻 28 陳文帝「沙羅齋懺
文」の訳注作成

発表者：ウィッテルン, クリスティアン

4 月21日 陳文帝「無礙會捨身懺文」の訳注作成

発表者：稲本泰生

6 月2日 陳眞觀「因縁無性論序」、朱世卿「性
法自然論」(1) の訳注作成

発表者：船山 徹

6 月16日 朱世卿「性法自然論」(2) の訳注作成

発表者：桐原孝見(龍谷大学)

6 月30日 朱世卿「性法自然論」(3) の訳注作成

発表者：船山 徹

7 月7日 朱世卿「性法自然論」(4) の訳注作成

発表者：船山 徹

10月6日 朱世卿「性法自然論」(5) の訳注作成

発表者：中西 久味(新潟大学)

10月20日 眞觀「因縁無性論」(1) の訳注作成

発表者：中西竜也

11月17日 眞觀「因縁無性論」(2) の訳注作成

発表者：上島 享(文学研究科)

12月1日 眞觀「因縁無性論」(3) の訳注作成

東方文化学院京都研究所旧蔵漢籍の整理と研究

班長 矢木 毅

研究期間 2016 年 4 月－2021 年 3 月 (2 年度目)

研究実施状況

毎週水曜日、14 時より 16 時まで、分館書庫にて
開催(12 月以降は避寒のため、本館講義室にて開
催)。前期は 4 月 12 日より 7 月 26 日まで(計 15
回)。後期は 10 月 4 日より 1 月 31 日まで(計 15
回)。本年度は史部政書類と集部楚辭類・別集類、
中江文庫経部の内容を検討した。毎回の検討の成果
を「典拠情報」としてまとめ、「全国漢籍データ
ベース」にリンクさせた形でウェブ上に公開してい
る。なお、関連する成果として『排印本十選』と題
する図録(センター資料叢刊第二十三冊)を東アジ
ア人文情報学研究センターより刊行した。

研究班員

所内：クリスティアン・ウィッテルン、古勝隆一、
高井たかね、永田知之、藤井律之、宮宅潔、
目黒杏子、古松崇志

学内：道坂昭廣(人間環境学研究科)、木村可奈
子

学外：小林隆道(神戸女学院大学)、土口史記
(岡山大・文・准教授)

研究実施内容

2017 年

4 月12日 東方文化学院京都研究所漢籍目録
史部政書類法令之属

発表者：高井たかね

4 月19日 東方文化学院京都研究所漢籍目録
史部政書類法令之属

発表者：永田知之

4 月26日 東方文化学院京都研究所漢籍目録
史部政書類法令之属

	発表者：永田知之	集部別集類	発表者：永田知之
5月10日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 史部政書類考工之属 発表者：クリスティアン・ウィッテルン	10月4日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類 発表者：古松崇志
5月17日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 史部政書類考工之属 発表者：クリスティアン・ウィッテルン 史部政書類法令之属 発表者：古勝隆一	10月11日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類 発表者：古松崇志
5月24日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 史部政書類考工之属 発表者：古勝隆一	10月18日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類 発表者：藤井律之
5月31日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 史部政書類考工之属 発表者：古勝隆一 史部政書類科学之属 発表者：矢木 毅	10月25日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類 発表者：藤井律之
6月7日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 史部政書類科学之属 発表者：矢木 毅	11月1日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類 発表者：宮宅 潔
6月14日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 史部政書類科学之属 発表者：藤井律之	11月15日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類 発表者：目黒杏子
6月21日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 史部政書類科学之属 発表者：藤井律之 集部楚辞類 発表者：クリスティアン・ウィッテルン	11月22日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類 発表者：目黒杏子 集部別集類 発表者：矢木 毅
6月28日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部楚辞類 発表者：クリスティアン・ウィッテルン	11月29日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類 発表者：矢木 毅
7月5日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部楚辞類 発表者：クリスティアン・ウィッテルン 集部楚辞類 発表者：古勝隆一	12月6日	中江文庫経部 経注疏合刻類, 易類 発表者：矢木 毅
7月12日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部楚辞類 発表者：古勝隆一 集部別集類 発表者：高井たかね	12月13日	中江文庫経部 書類 発表者：目黒杏子
7月19日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類 発表者：高井たかね	12月20日	中江文庫経部 書類 発表者：宮宅 潔
7月26日	東方文化学院京都研究所漢籍目録	12月27日	中江文庫経部 書類 発表者：古松崇志
		2018年	
		1月17日	中江文庫経部 書類 発表者：藤井律之 詩類 発表者：永田知之
		1月24日	中江文庫経部 詩類 発表者：永田知之 詩類 発表者：高井たかね
		1月31日	中江文庫経部 詩類, 礼類 発表者：高井たかね 詩類 発表者：古勝隆一
		漢籍リポジトリの基礎的研究 班長 ウィッテルン クリスティアン 研究期間 2016年4月ー2021年3月(2年度目)	

研究実施状況

今年度は昨年度の逸文に引き続き引用文の摘出の方法を検討し、実験として論語から他の漢籍に見られる影響をヒートマップな形で視覚化した。課題の方法論をさらに深めるために海外の動向と最新の論文を検討し、その結果として漢籍リポジトリへの新たに Topic modeling の適用の実験をはじめました。この問題は来年度以降引き続き検討する必要がある。

研究班員

所内：安岡孝一，古勝隆一，永田知之，土口史記，ビル・マック
学内：宮崎 泉（文学研究科）
学外：白須裕之（人文科学研究所研究員）

研究実施内容

2017 年

- 4 月25日 昨年度のまとめと今後の課題
- 5 月9日 TLS と漢籍リポジトリ，初期検討
- 6 月13日 漢籍リポジトリ内の引用文の摘出方法について：citfind
- 6 月27日 引用文摘出実装実験，論語引用のヒートマップ
- 10月10日 人文情報学の国際的動向
- 10月24日 論文検討：The Distant Reading of Religious Texts: A “Big Data” Approach to Mind-Body Concepts in Early China
- 11月14日 論文検討：Topic Modeling the Hān diān Ancient Classics (漢典古籍)]
- 11月28日 論文検討：Unsupervised identification of text reuse in early Chinese literature
- 12月12日 漢籍に適用する Topic Modeling の問題点：モデルの比較

2018 年

- 1 月9日 漢籍検討用コーパス：資治通鑑唐記
- 1 月23日 資治通鑑 唐記モデリング評価

秦代出土文字史料の研究

班長 宮宅 潔

研究期間 2016 年 4 月－2021 年 3 月（2 年度目）

研究実施状況

里耶秦簡・岳麓簡の概要を紹介し、その内容や研

究状況について意見を交換したうえで、項目 7 に示したように会読を進めた。会読により作成された訳注（岳麓書院所蔵簡《秦律令（壹）》訳注稿 その 1）は、東方学報 92 冊に掲載予定である。これと平行して、研究班の活動内容を紹介する HP を作成し、そこに里耶秦簡に関する札記を公開した（<http://www.shindai.zinbun.kyoto-u.ac.jp/index.html>）。

研究班員

所内：趙晟佑，李 周炫，藤井律之，古勝隆一，宮宅潔，目黒杏子，陳捷
学内：宗周太郎（文学研究科），斎藤賢（文学研究科）

学外：伊藤瞳（関西大学・文学研究科・博士課程後期課程），郭聡敏（立命館大学・文学研究科・博士前期），佐藤達郎（関西学院大学文学部・教授），角谷常子（奈良大学文学部・教授），鷹取祐司（立命館大学文学部・教授），土口史記（岡山大学），安永知晃（関西学院大学・文学研究科博士課程後期課程），畑野吉則（関西大学）

研究実施内容

2017 年

- 4 月7日 岳麓簡会読 53-59
発表者：伊藤 瞳（関西大学）
- 4 月14日 岳麓簡会読 53-59
発表者：伊藤 瞳（関西大学）
- 4 月21日 岳麓簡会読 53-59
発表者：伊藤 瞳（関西大学）
- 4 月28日 岳麓簡会読 60-69
発表者：安永知晃（関西学院大学）
- 5 月12日 岳麓簡会読 60-69
発表者：安永知晃（関西学院大学）
- 5 月19日 岳麓簡会読 70-79 発表者：宮宅 潔
- 5 月26日 岳麓簡会読 70-79 発表者：宮宅 潔
- 6 月2日 岳麓簡会読 80-90
発表者：佐藤達郎（関西学院大学）
- 6 月9日 岳麓簡会読 80-90
発表者：佐藤達郎（関西学院大学）
- 6 月16日 岳麓簡会読 91-100
発表者：鷹取祐司（立命館大学）
- 6 月23日 岳麓簡会読 91-100

- 発表者：鷹取祐司（立命館大学）
- 6月30日 岳麓簡会読 101-105
発表者：角谷常子（奈良大学）
- 7月7日 岳麓簡会読 101-105
発表者：角谷常子（奈良大学）
- 7月21日 里耶秦簡会読⑧ 703～⑧ 736
発表者：藤井律之
- 7月28日 里耶秦簡会読⑧ 703～⑧ 736
発表者：藤井律之
- 9月8日 里耶秦簡会読⑧ 703～⑧ 736
発表者：藤井律之
- 9月15日 岳麓簡会読 106-115
発表者：畑野吉則（関西大学）
- 9月22日 里耶秦簡会読⑧ 737～⑧ 754
発表者：伊藤 瞳（関西大学）
- 10月6日 岳麓簡会読 106-115
発表者：畑野吉則（関西大学）
- 10月13日 里耶秦簡会読⑧ 760～⑧ 767
発表者：安永知晃（関西学院大学）
- 10月20日 岳麓簡会読 106-115
発表者：畑野吉則（関西大学）
- 10月27日 里耶秦簡会読⑧ 760～⑧ 767
発表者：安永知晃（関西学院大学）
- 11月17日 岳麓簡会読 116-123
発表者：宗周太郎（文学研究科）
- 11月24日 里耶秦簡会読⑧ 755～⑧ 759
発表者：畑野吉則（関西大学）
- 12月1日 岳麓簡会読 116-123
発表者：宗周太郎（文学研究科）
- 12月8日 里耶秦簡会読⑧ 755～⑧ 759
発表者：畑野吉則（関西大学）
- 12月15日 岳麓簡会読 124-131
発表者：斎藤 賢（文学研究科）
- 12月22日 里耶秦簡会読⑧ 755～⑧ 759
発表者：畑野吉則（関西大学）
- 2018年
- 1月12日 岳麓簡会読 124-131
発表者：斎藤 賢（文学研究科）
- 1月19日 里耶秦簡会読⑧ 768～⑧ 771
発表者：古勝隆一
- 1月26日 岳麓簡会読 132～141

- 発表者：宮宅 潔
- 2月2日 里耶秦簡会読⑧ 768～⑧ 771
発表者：古勝隆一
- 2月9日 岳麓簡会読 132～141
発表者：宮宅 潔
- 2月16日 里耶秦簡会読⑧ 772～⑧ 790
発表者：宗 周太郎（文学研究科）
- 2月23日 岳麓簡会読 132～141
発表者：宮宅 潔
- 3月2日 里耶秦簡会読⑧ 772～⑧ 790
発表者：宗 周太郎（文学研究科）
- 3月9日 岳麓簡会読 132～141
発表者：宮宅 潔
- 3月16日 里耶秦簡会読⑧ 791～⑧ 816
発表者：斎藤 賢（文学研究科）

龍門北朝窟の造像と造像記 班長 稲本泰生
研究期間 2017年4月～2020年3月（1年度目）
研究実施状況

「龍門五十品」として中田勇次郎『龍門造像題記』（中央公論社）に掲載される造像記の文面・内容等に順次検討を加え、古陽洞所在分を終了した。ついで同書未載の北魏造像記の事例を『北京図書館蔵龍門石窟造像題記拓本全編』（広西師範大学出版社）の掲載順に取り上げ、対応する造像とともに検討を進めている。

研究班員

所内：岡村秀典、安岡孝一、向井佑介

学内：内記理（文化財総合研究センター）、高橋早紀子（PD）、苫名悠（大学院文学研究科）、桑原正明（大学院文学研究科）、折山桂子（大学院文学研究科）

学外：佐藤智水（龍谷大学）、石松日奈子（清泉女子大学）、外山潔（泉屋博物館）、山名伸生（京都精華大学）、斎藤龍一（大阪市立美術館）、濱田瑞美（横浜美術館）、大西磨希子（仏教大学）、田林啓（白鶴美術館）、田中健一（大阪大谷大学）、上枝いづみ（金沢大学）、黄盼（京都府立大学）

研究実施内容

2017年

人 文 学 報

4月11日	研究班開始にあたって 尹愛姜等造像記、高思朔等造像記、王史平呉等造像記の検討	発表者：稲本泰生	技術・自然・(ポスト)現代性の思想——哲学的探求	佐藤 淳二
4月25日	馬慶安造像記など三件	発表者：稲本泰生	近代天皇制の文化史的研究	高木 博志
5月9日	劉洛真兄弟造像記など三件	発表者：稲本泰生	人種・エスニシティ論	竹沢 泰子
5月23日	祀允造像記など三件	発表者：田中健一	南アジアの宗教と社会／近代における暴力、セクシュアリティ、宗教	田中 雅一
6月13日	比丘尼法文法隆等造像記など三件	発表者：田中健一	ヴェーダ文献の生成と伝承の研究	藤井 正人
6月27日	安定王造像記(二件)	発表者：田中健一	西アフリカと南アジアの宗教、憑依、間身体性	石井 美保
7月11日	杜遷等廿三人造像記など四件	発表者：稲本泰生	近代トランスコーカサス(特にグルジア)における匪賊	伊藤 順二
7月25日	比丘慧栄／恵栄造像記(三件)	発表者：稲本泰生	近世ヨーロッパの歴史叙述と政治思想	王寺 賢太
10月10日	比丘法勝造像記など三件	発表者：向井佑介	東アジアにおける生命科学と「自然」	瀬戸口明久
10月24日	王光造像記など四件	発表者：大西磨希子	近代日本美術と西洋	高階絵里加
11月14日	邑師僧智元等造像記など三件	発表者：向井佑介	精神分析的知の思想史的位置づけ	立木 康介
11月28日	高慧造像記など五件	発表者：大西磨希子	農業史の再構築	藤原 辰史
12月12日	敦煌造像記など六件	発表者：向井佑介	フランス象徴主義と文学的モデルニテ	森本 淳生
2018年			島崎藤村その他の近代文学者の作品研究—リアリズム、メディア、帝国	HOLCA, Irina
1月9日	法転造像記など五件	発表者：桑原正明	皇室の土地所有に関する歴史的研究	池田さなえ
1月23日	張英周妻蘇文好造像記など四件	発表者：桑原正明	無声映画史	小川佐和子
2月13日	道守造像記など五件	発表者：稲本泰生	近代日本民俗誌システムの研究	菊地 暁
			近代西洋医学発展史研究および身体論	田中祐理子
			在米日・墨移民の相互関係に関する歴史的研究—環太平洋の視点から	徳永 悠
			啓蒙と文学—アドルノ美学における「人間性」の位置づけ—	藤井 俊之
			東方学研究部	
			先秦時代の金文	浅原 達郎
			川西走廊の漢藏諸語の記述研究	池田 巧
			中国共産党史の研究	石川 禎浩
			イスラーム東漸史の研究	稲葉 穰
			清代の文化と社会	井波 陵一
			近代中国の財政と社会	岩井 茂樹
			仏教研究知識ベース—禅仏教を例として	WITTERN, Christian
			近世社会解体過程の研究	岩城 卓二
			近代西洋音楽史	岡田 暁生
			戦前期日本の工業化と華僑ネットワーク	籠谷 直人
			イギリス・アイルランド近現代史	小関 隆
			古代中国の考古学研究	岡村 秀典
			中国伝統科学の思想史的考察	武田 時昌
			インド・中国における仏教の学術と実践	船山 徹

高麗官僚制度研究 矢木 毅
 文字コード理論 安岡 孝一
 東アジア仏教美術史の研究 稲本 泰生
 中国注釈学史研究 古勝 隆一
 中国イスラームの研究 中西 竜也
 中国中世近世の文学理論 永田 知之
 10～13世紀ユーラシア東方における王朝間関係の研究 古松 崇志
 秦漢制度史の研究 宮宅 潔
 歴史考古学的方法にもとづく中国文化研究 向井 佑介
 近代華南沿海の社会経済制度の変容 村上 衛
 中国家具とその使用に関する研究 高井たかね
 中国古代中世の官制史 藤井 律之
 東西資料によるモンゴル時代の文化交流と諸制度の研究 宮 紀子
 秦漢期国家儀礼の研究 目黒 杏子
 文字定義情報に基づく文書表現系に関する研究 守岡 知彦
 中国近現代の知識人と政治人文学研究部 森川 裕貫

・連続セミナー「2017年の論点—沖縄、子どもの貧困、地方消滅、南スーダン—」(人文研アカデミー)

2017年4月27日、5月19日、6月10日、30日

於 京都大学人文研本館 4F 大会議室

4月27日(木)「沖縄の歴史のゆくえ—自立と連携—」

講演者：森 宣雄

コメント：駒込 武

司会：小関 隆

5月19日(金)「子どもの貧困をどう捉えるか」

講演者：阿部 彩

コメント：藤原 辰史

司会：田中祐理子

6月10日(土)「始まった田園回帰—農山村再生に向けて—」

講演者：小田切徳美

コメント：岩城 卓二

司会：岡田 直紀

6月30日(金)「平和構築とはなにかを考える—自衛隊の国連 PKO 派遣と南スーダン—」

講演者：栗本 英世

コメント：石井 美保

司会：小山 哲

事業概況

・Kyoto Lectures 2017

2017年4月24日

於 京都大学人文科学研究所本館セミナー室1

Japan and the United States Observations from immigration Studies

講演者：(コロンビア大学教授) Gary Y. Okihiro

・ジャズ・コンサート (人文研アカデミー)

2017年5月13日

於 京都府立府民ホール アルティ

「すごいジャズには理由(わけ)がある」

出演：フィリップ・ストレンジトリオ

(P) フィリップ・ストレンジ／

(Ds) 齋藤洋平／(B) 荒玉哲郎

話者：岡田 暁生

・Kyoto Lectures 2017

2017年5月16日

於 京都大学人文科学研究所本館セミナー室1

Magic and the conversion of the lords of Kyushu (1560-1580)

(オックスフォード大学准教授)

講演者：Alan Strathern

・Romania Meets Japan in 20th Century Literature, Media and Culture

2017年5月25日

於 Christian University, Room 121

Translating Japanese literature in communist

Romania: the case of Shimazaki Toson's

The Broken Commandment

講演者：Irina Holca

・ Kyoto Lectures 2017

2017 年 5 月 30 日

於 京都大学人文科学研究所本館セミナー室 1
Sea Theologies : Elements for a Conceptualization of
Maritime Religiosity in Japan
(カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授)
講演者 : Fabio Rambelli

・ 京都アスニー・ゴールデン・エイジ・アカデミー

「医道の歩み、ワザの伝統」

2017 年 6 月 2 日, 9 日, 16 日, 23 日, 30 日

於 京都市障害学習総合センター 4 階ホール
6 月 2 日 (金) 「中国古代の医学—最近の考古発
掘から」

講演者 : 猪飼 祥夫

6 月 9 日 (金) 「京都の鍼立と鍼師—鍼治専門医
と鍼製作職人の二人三脚」

講演者 : 長野 仁

6 月 16 日 (金) 「信長・秀吉・家康を診た医師の
カルテ—曲直瀬玄朔の生涯」

講演者 : 葉山美知子

6 月 23 日 (金) 「地震・黒船・明治維新—幕末の
江戸医学館」

講演者 : 多田 伊織

6 月 30 日 (金) 「復古と革新のあいだ—近代京都
の医史学」

講演者 : 武田 時昌

・ トークセッション (人文研アカデミー)

2017 年 6 月 3 日

於 京都大学人文科学研究所共通 1 講義室
奥行きをなくした顔の時代 —コスメ, 女子写真,
SNS—
「コスメの国の私遊び」

講演者 : (甲南女子大学准教授) 米澤 泉

「イメージ化する身体—顔のマニピュレーション」

講演者 : (甲南女子大学教授) 馬場 伸彦

「顔と写真」 講演者 : (写真家) 澤田 知子

司会 : (甲南女子大学非常勤講師) 小柏 裕俊

・ 国際セミナー

2017 年 6 月 4 日 (日)

於 京都大学人文科学研究所 (No.38) 4 階大会
議室
Pain in My Heart: Living with the Legacies of
Everyday Violence in the Contemporary South/by
Prof. Nan Elizabeth Woodruff

講演者 : Ran Zwigenberg

(ペンシルヴァニア州立大学助教授)

Nan Elizabeth Woodruff

(ペンシルヴァニア州立大学教授)

コメンテーター : 永井真理子

(テンプル大学ジャパンキャンパス日本文学・
文芸創作 上級准教授)

・ 国際セミナー 「Plants, Pathogens, and Empire :
Race Across the Pacific in the Early 20th
Century」

2017 年 6 月 7 日

於 京都大学人文科学研究所本館 1 階・101 号室
(ワシントン大学アメリカン・エスニック・
スタディーズ学部助教授代理)
講演者 : ジェニー・シノヅカ
コメンテーター : 瀬戸口明久

・ 国際ワークショップ

原爆と医学史 The A-bomb and Medical History
2017 年 6 月 19 日 (月)

於 京都大学人文科学研究所本館・1 階・セミ
ナー室 1

講演者 : Ran Zwigenberg

(ペンシルヴァニア州立大学)

講演者 : (立命館大学) 中尾麻伊香

講演者 : (慶応大学) Shi Lin Lou

講演者 : 田中祐理子

・ Kyoto Lectures 2017

2017 年 6 月 21 日 (水)

於 京都大学人文科学研究所本館 1 階セミナー室 1
Citadels of Modernity : Japan's Castles in War and
Peace

講演者：(ペンシルヴァニア州立大学助教授)

Ran Zwigenberg

・人文研アカデミー 2017「人種神話を解体する—
「血」の政治学を超えて」

出版記念連続セミナー@東京

2017年6月22日, 29日, 7月6日, 13日, 27日

於 京都大学東京オフィス大会議室 AB

6月22日(木)〈第1回 表象と呼称をめぐる問題〉
「血」の政治学をこえて 講演者：竹沢 泰子

呼称をめぐる議論と表象略史 講演者：岡村 兵衛
(「ハーフ」表象の歴史研究者)

6月29日(木)〈第2回 映画表象にみる人種・
ジェンダー・セクシュアリティ〉

1930年代の「混血児」表象—『港の日本娘』『から
ゆきさん』を題材に 講演者：高 美罈

(法政大学社会学部准教授)

沖縄という風景に抗して—『BLUES HARP』を題
材に 講演者：管野 優香

(同志社大学大学院グローバル・
スタディーズ研究科准教授)

7月6日(木)〈第3回 「混血」から歴史を読み
直す〉

植民地統治下の白人性と「混血」—英領インドの事
例から 講演者：水谷 智

(同志社大学グローバル地域文化学部教授)

アメリカのスポーツと「混血」講演者：川島 浩平
(武蔵大学人文学部教授)

7月13日(木)〈第4回 自分らしい生き方を求めて〉
「ハーフ」の若者たちの自己像—日本とパキスタン
の国際結婚の子どもたち

講演者：(京都女子大学現代社会学部教授)

工藤 正子

在日「ダブル」の歴史観—加害/被害の二元論の超
克 講演者：(神戸学院大学現代社会学部教員)

李 洪章

7月27日(木) 合評会

講演者：(モナシュ大学教授) 岩渕 功一,

(日本女子大学人間社会学部教授) 成田 龍一,

(武蔵大学人文学部教授) 川島 浩平,

竹沢 泰子 ほか

・京都大学国際シンポジウム「The History and
Culture of Iran and Central Asia in the First
Millennium CE: From the Pre-Islamic to the
Islamic Era」

2017年6月25日, 26日, 27日

於 ノートル・ダム大学ロンドン・キャンパス

講演者：Deborah Tor, Thomas G. Burman,

稲葉穰, nicolas Sims-Williams,

Michael Shenkar, Pavel Lurje,

Gabrielle ven den Berg, Louise Marlow,

Daniel Sheffield, Francois de Blois,

Robert Gleave, Florian Schwarz, 吉田豊,

Dilnoza Duturaeva, 影山悦子, Judith Lerner,

Arezou Azad, Deborah Klimburg-Salter,

Matteo Compareti, George Malagaris,

Luke Treadwell, Michael Bates,

Hugh Kennedy, Frantz Grenet, Rocco Rante,

Étienne de la Vaissière

・夏期公開講座「名作再読—いま読んだらこんなに
面白い」(人文研アカデミー)

2017年7月8日

於 京都大学人文科学研究所本館共通1講義室

「虚構原則への誘い 寺山修司『あゝ、荒野』を読
む」 講師：藤井 俊之

「歌舞伎役者一代記初世 中村仲蔵『月雪花寝物語』
を読む」 講師：永田 知之

「古都奈良・京都の発見 岡倉天心『日本美術史』を
読む」 講師：高木 博志

・アンナ・ザイデル記念講演

2017年7月12日

於 京都大学人文科学研究所東アジア人文情報学
研究センター

「Jien's Poetry, Dogmatics and Politics: The
Naniwa-hyakusha and the Gukan-shō」

発表者：(コレージュ・ド・フランス教授)

Jean-Noël Robert

・Kyoto Lectures 2017

2017年7月19日(水)

人 文 学 報

於 京都大学人文科学研究所本館1階セミナー室1
Jesuit Buildings in Early Modern Japanese Art: A
Comparative Analysis

講演者: (東京大学工学博士)
Bébio Vieira Amaro

・人文研アカデミー

藤井俊之『啓蒙と神話』+上尾真道『ラカン、真理
のバトス』公開合評会

アドルノ/ラカン—感性と理性の狭間で — “人間”
は “真理” に耐えられるのか—

2017 年 7 月 29 日 (土)

於 京都大学人文科学研究所本館1Fセミナー室 1
講演者: 藤井 俊之

『啓蒙と神話—アドルノと人間性の形象』をめぐって

コメント: 岡田 暁生

コメント: 佐藤 淳二

講演者: (立命館大学衣笠総合研究機構)

上尾 真道

『ラカン、真理のバトス—1960 年代フランス思想と
精神分析』をめぐって

コメント: 立木 康介

コメント: (立命館大学大学院
先端総合学術研究科教授)

小泉 義之

司会: 王寺 賢太

・京都大学人文研高校生のための夏期セミナー

2017 年 8 月 8 日

於 京都大学人文科学研究所分館大会議室
—東方学研究への招待— 第 5 回「人文研東方部へ
ようこそ」

いろいろな漢文を読んでみよう

講話者: 古勝 隆一

明清の暮らしをかいま見て—女性研究者の間わず語り

講話者: 高井たかね

・東アジア人文情報学研究センター講習会

2017 年度漢籍担当職員講習会 (初級)

第 1 日 (9 月 25 日)

開講挨拶・オリエンテーション 岡田 秀典

漢籍について 永田 知之
カードの取り方——漢籍整理の実践

古松 崇志

第 2 日 (9 月 26 日)

工具書について 高井たかね
漢籍関連サイトの利用 Wittern, Christian
実習を始めるにあたって 梶浦 晋
漢籍目録カード作成実習

第 3 日 (9 月 27 日)

目録検索とデータベース検索 安岡 孝一
漢籍データ入力実習 (1)

第 4 日 (9 月 28 日)

和刻本について (大学院文学研究科教授)
宇佐美文理

漢籍データ入力実習 (2)

第 5 日 (9 月 29 日)

朝鮮本について 矢木 毅
実習解説 永田 知之
情報交換 安岡 孝一
終了挨拶 岡村 秀典

2017 年度漢籍担当職員講習会 (中級)

第 1 日 (11 月 6 日)

開講挨拶・オリエンテーション 岡村 秀典
経部について 古勝 隆一
叢書部について 藤井 律之
叢書と漢籍データベース 安岡 孝一

第 2 日 (11 月 7 日)

史部について 宮宅 潔
漢籍データ入力実習 (1)

第 3 日 (11 月 8 日)

子部について 永田 知之
漢籍データ入力実習 (2)

第 4 日 (11 月 9 日)

集部について
(大学院人間・環境学研究科教授)

道坂 昭廣

漢籍データ入力実習 (3)

第 5 日 (11 月 10 日)

漢籍と情報処理 Wittern, Christian
実習解説 永田 知之
情報交換 安岡 孝一

終了挨拶

岡村 秀典

・ Kyoto Lectures 2017

2017 年 9 月 26 日 (水)

於 フランス国立極東学院京都センター

On French and Japanese Anthropologies: André Leroi-Gourhan in Kyoto (1937-1939)

講演者: (ジュネーヴ大学) Damien Kunik

・ ジゼル・サピロ講演会

2017 年 9 月 27 日 (水)

於 京都大学人文科学研究所 本館 1 階 セミ
ナー室 1

『ドイツ占領下におけるフランスの文学場』

講演者: (フランス国立社会科学
高等研究院 (EHESS) 研究主任)

Gisèle Sapiro

・ 京都大学人文科学研究所共同研究

「ブラフマニズムとヒンドウイズム—南アジアの社
会と宗教の連続性と非連続性」第 3 回シンポジウム「古代・中世インドの神話, 説
話, 表象」

2017 年 10 月 7 日 (土)

於 京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室

「古代インドの捨て子伝説をめぐって」 堂山英次郎
「ヴェーダ文献における河川について」 山田 智輝
「神話における頭部の切断と再生について」

伊澤 敦子

「パリー聖典におけるブラフマー神の諸相」

名和 隆乾

「降魔成道と阿闍仏」

佐藤 直実

「説話世界の転輪聖王—ブリハット・カター諸伝本
の比較を通して」

柴崎 麻穂

「中世マハーラーシュトラのバクティ教団における
出家者の実像」

井田 克征

・ 人文研アカデミー 2017『人文学への誘い 京都
大学人文科学研究所協力講座』2017 年 10 月 14 日 (土), 11 月 18 日 (土), 12 月
23 日 (土)於 朝日カルチャーセンター朝日 JTB・交流文
化塾 京都 京都朝日会館 8 階

10月14日 (土)

卑弥呼の鏡を読む 三角縁神獣鏡を創作した陳
氏の心と技 講師: 岡村 秀典

11月18日 (土)

ロシアの革命とコスミズム バクーの石油とカ
フカスの瞑想から 講師: 伊藤 順二

12月23日 (土)

オペレッタでわかる世界史 大衆喜劇における
風刺表現の変遷 講師: 小川佐和子

・ Kyoto Lectures 2017

2017 年 10 月 20 日 (金)

於 フランス国立極東学院京都センター

Mantras for the Masses

The Saidaiji Order and the Spread of Kōmyō
Shingon Practices in Medieval Japan

講演者: (アルバータ大学准教授)

David Quinter

・ 京都大学国際シンポジウム アジア伝統科学国際
会議 2017

2017 年 10 月 25 日 (水) ~ 28 日 (土)

於 京都大学 理学研究科セミナーハウス, 人文
科学研究所本館 4 階大会議室 (10 月 27 日の
み)

天と地の科学—東と西の出会い

基調講演

Christopher Cullen (Needham Research Insti-
tute/University of Cambridge)

Krishnamurti Ramasubramanian (IIT Bombay)

・ アンスティチュ・フランセ関西 創立 90 周年記念

2017 年 10 月 28 日 (土)

於 アンスティチュ・フランセ関西—京都 稲畑
ホールシンポジウム 京 (みやこ) にフランスあり!—ア
ンスティチュ・フランセ関西の歴史と記憶—

第一部

「イントロダクション—アンスティチュの創設者,

クローデルと稲畑」 立木 康介
「記録された記憶—関西日仏学館という知的風景を
考える」 (フランス国立極東学院教授 東京支部長,
フランス国立高等研究実習院教授)
フランソワ・ラシオー
「日仏学館の90年—学生の仲間と生活」
(京都大学名誉教授) 富永 茂樹

第二部

「第二次世界大戦中の関西日仏学館」
(立命館大学特任教授)
ミッシェル・ワッセルマン
パネル・ディスカッション
共催：京都大学人文科学研究所

・アフリカ・サブサハラ地域におけるジェンダー正
義と宗教 女性器切除 (FGM) をめぐって

2017年11月8日(水)

於 京都大学稲盛財団記念館3階318号室

講演者：(ジョージタウン大学カタル・
キャンパス人類学教授)

ロガリア・ムスタファ・アブーシャラフ
コメンテーター：(京都大学大学院アジア・
アフリカ地域研究研究科院生)

中村 香子
(大阪府立大学
人間社会システム科学研究科教授)

宮脇 幸生

司会：田中 雅一

・人文研アカデミー 2017「人種神話を解体する—
科学と社会の知」

出版記念 連続セミナー@東京

2017年11月10日, 24日, 12月8日, 22日

於 新丸の内ビルディング10階 京都アカデミー
フォーラム in 丸の内 大会議室

11月10日(金)〈第1回 人種研究と日本の人文科
学〉

—日本の考古学と人種研究

講演者：(日本大学経済学部教授) 坂野 徹

—日本近代の民衆統治と科学的人種主義

講演者：(四国大学経営情報学部准教授)

関口 寛
11月24日(金)〈第2回 ヒトの多様性に関する最
新の成果から〉

—人類集団遺伝学についての“集団”とは何か？

講演者：(北里大学医学部准教授)

太田 博樹

—「人種」優劣と植民地主義に繋がった自然人類学

講演者：瀬口 典子

(九州大学大学院比較社会文化研究院准教授)

12月8日(金)〈第3回 人種研究とマイノリティ〉

—身体の贈与と共同体の生成—インドの事例から

講演者：石井 美保

—ハンセン病者のアナキズム—フィリピンでアメリ
カの植民地秩序を変える

講演者：(名古屋大学大学院

国際開発研究科准教授)

日下 渉

12月22日(金) 座談会「人類集団の分類とカテゴ
リーをめぐって」

講演者：太田博樹(北里大学医学部准教授),

篠田謙一(国立科学博物館人類研究

部人類史研究グループ長), 田辺明

生(東京大学大学院総合文化研究科

教授), 徳永勝士(東京大学大学院

医学研究科教授), 坂野徹(日本大

学経済学部教授), 竹沢泰子

・シンポジウム

証言・告白・愁訴 —医療と司法における語りの現
場から—

2017年11月11日(土)

於 京都大学人文科学研究所4階大会議室

司会：(立命館大学総合心理学部准教授)

田中 雅一・沢野美智子

発表1 「傾聴と看取りのあいだに—大阪市西成区
の単身高齢者と向きあう訪問看護師」

(京都大学) 西 真如

発表2 「ナラティブの亀裂, 主体の揺れ—精神分
析を忘れないために」 立木 康介

発表3 「語りを鍛え, 誘い, 支援する—司法面接
の試み」 (立命館大学) 仲 真紀子

発表4 「原爆症認定訴訟における体験の記憶と政治」 (広島市立大学) 直野 章子

コメント: (青山学院大学社会情報学部教授) 高木光太郎, 田中 雅一

・人文研アカデミー 2017 連続レクチャー上映会

ロシア革命百周年記念映画祭——映像に刻まれたロシア革命——

2017年11月23日(木)~26日(日)

於 京都文化博物館3階フィルムシアター

11月23日(木)

司会: (京都大学教授) 中村 唯史
「革命前後のロシア映画, ロシア・ソ連映画の日本受容: 京大人文研所蔵山本明資料の紹介」

小川佐和子

「ヴラジーミル・ヴィソツキー: 歌と演劇と映画」

(東京大学准教授) 楯岡 求美

11月24日(金) 司会: (天理大学教授) 大平 陽一

「巨大油田都市への視線」 伊藤 順二

11月25日(土) 司会: 小川佐和子

「映画《十月》における映画言語の試みについて」

大平 陽一

「映画の事実: 革命十周年記念の映画」

(早稲田大学専任講師) 八木 君人

11月26日(日) コメンテーター: 八木 君人

司会: 小川佐和子

「《ロシア・アヴァンギャルド》と《社会主義リアリズム》のあいだ」 中村 唯史

「ロシア革命と映画」

(ロシア国立トレチャコフ美術館映像部門長)

マクシム・バヴロフ

・Kyoto Lectures 2017

2017年11月24日(金)

於 フランス国立極東学院京都センター

Who Cooked for Consul-General Townsend Harris?: Chinese and the Introduction of Western Cooking to Japan

講演者: (関西学院大学教授) Timothy Y. Tsu

・人文研アカデミー 2017『人文学への誘い 京都大学人文科学研究所協力講座』

2018年1月20日(土), 2月3日(土), 3月7日(土)

於 朝日カルチャーセンター朝日JTB・交流文化塾 京都 京都朝日会館8階

1月20日(土) 中国共産党の成立・発展と煩悶青年 講師: 森川 裕貫

2月3日(土) 富岡鉄斎が描く「国史」 嵯峨の古典文学・南朝史跡・赤穂義士・天皇陵 講師: 高木 博志

3月7日(土) 劉邦の「斬蛇剣」 漢王朝の宝剣伝説とそのゆくえ

講師: 目黒 杏子

・Kyoto Lectures 2018

2018年1月24日(水)

於 フランス国立極東学院京都支部

Tea Making and Drinking: Socio-Economic Perspectives on late 19th and early 20th-century Japan

講演者: (ウェイクフォレスト大学准教授)

Robert Hellyer

・人文研アカデミー 2017「近世の日本と中国」

2018年2月1日, 8日, 15日, 22日

於 京都大学人文科学研究所 セミナー室1

2月1日(木) 〈第1回 モンゴルの海洋政策と日本〉

2月8日(木) 〈第2回 明の海禁政策と日本〉

2月15日(木) 〈第3回 長崎貿易信牌をめぐる新井白石と康熙帝〉

2月22日(木) 〈第4回 五爪龍と「日本国王」〉

講師: 岩井 茂樹

・Kyoto Lectures 2018

2018年2月20日(火)

於 フランス国立極東学院京都支部

Japan of the World: Japan, Peace, and Internationalism in the wake of the First World War

講演者: (京都大学法学研究科博士研究員)

Mahon Murphy

・第13回 TOKYO 漢籍 SEMINAR

2018年3月12日

於 一橋大学一橋講堂中会議場

中国近代の巨人とその著作

司会：矢木 毅

挨拶：岡村 秀典

士の「家計簿」—曾國藩の著作より

講演者：村上 衛

蒋介石と『中国の命運』

講演者：森川 裕貫

毛沢東—書家として、詩人として

講演者：石川 禎浩

・Kyoto Lectures 2018

2018年3月14日(水)

於 フランス国立極東学院京都支部

The Jesuits and Slavery in Early Modern Japan:

The system of “permits”

講演者：(東京外国語大学特任准教授)

Lucio de Sousa

・共同研究「生と創造の探究—環世界の人文学」主催
映画上映およびトークセッション

「ヒーリング・フクシマ／Healing Fukushima」を観る

2018年3月14日(水)

於 京都大学人文科学研究所本館・共通一講義室

登壇者：(映画「ヒーリング・フクシマ」監督)

Sulfikar Amir

Shi Lin Loh (映画「ヒーリング・フクシマ」脚本)

中尾麻伊香

・退職記念講演会『Take a load for free』

2018年3月22日

於 京都大学人文科学研究所東アジア人文情報学
研究センター

講演者：井波 陵一

・第4回シンポジウム「古代・中世インドの儀礼、
制度、社会」

2018年3月24日(土)、3月25日(日)

於 東京大学文学部法文1号館215教室

主催：京都大学人文科学研究所共同研究「ブラフマ
ニズムとヒンドウイズム—南アジアの社会と宗教の
連続性と非連続性」

講演者：高橋孝信、天野恭子、西村直子、

大島智靖、梶原三恵子、高橋健二、

沼田一郎、河崎豊、横地優子、井狩彌介

招へい研究員

・巫 仁恕 中央研究員近代史研究所研究員

19世紀後半中国の地域的消費と社会変遷：同治
期四川省巴県を中心に

(文化生成研究客員部門)

受入教員 村上准教授

期間 2017年2月1日～2017年4月30日

・ZHANG, Qiong ウェイクフォレスト大学准教授

明末清初の天文気象学

(文化生成研究客員部門)

受入教員 武田教授

期間 2017年5月15日～2017年8月14日

・ZWIGENBERG, Ran ペンシルベニア州立大学

アジア研究専攻准教授

精神医学と原爆

(文化連関研究客員部門)

受入教員 田中教授

期間 2017年4月5日～2017年8月20日

・PFERSMANN, Otto フランス国立社会科学高等

研究院主任研究員

法学的認識論の弱さが法律体系にもたらす影響の
比較研究

(文化生成研究客員部門)

受入教員 立木准教授

期間 2017年8月8日～2018年2月7日

・金 培懿 国立台湾師範大学文学部教授

近代日本における経学史研究の展開と中国への影響

(文化連関研究客員部門)

受入教員 古勝准教授

期間 2017年9月1日～2018年2月28日

・卞 東波 南京大学文学院教授

唐宋詩日本古注本研究

(文化生成研究客員部門)

受入教員 永田准教授

期間 2018年2月1日～2018年4月30日

招へい外国人学者

- ・周 佳 浙江大学古籍研究所講師
宋代官衙制度研究—墓誌史料からの考察を中心に
受入教員 宮宅准教授
期間 2016年8月1日～2017年8月2日
- ・趙 晟佑 ソウル国立大学助教授
東アジア仏教にみえる末法思想の比較研究
受入教員 宮宅准教授
期間 2016年8月1日～2017年8月2日
- ・張 利軍 東北師範大学歴史文化学院副教授
夏商周国家構造の考古学研究
受入教員 岡村教授
期間 2016年9月20日～2017年9月19日
- ・張 忠煒 中国人民大学歴史系副教授
秦漢時代の法律認識—経学・讖緯・術数からみた—
受入教員 宮宅准教授
期間 2016年10月1日～2017年9月30日
- ・都 賢喆 延世大学校文科大学史学科教授
高麗末における明・日本との詩文交流の意義
受入教員 矢木教授
期間 2017年3月16日～2018年2月28日
- ・蔡 丹君 中国人民大学文学院古代文学教研室講師
『陶淵明集』の日本における抄刻と流伝
受入教員 永田准教授
期間 2017年4月26日～2017年6月18日
- ・VERDON, Noemie ナーランダー大学講師
中世北インドの宗教・文化史、特に11世紀の著作家
受入教員 稲葉教授
期間 2017年7月10日～2017年7月22日
- ・許 文堂 中央研究院近代史研究所副研究員
吉田書簡からみた中華民国と日本の断交危機
受入教員 村上准教授

期間 2017年7月18日～2017年8月18日

- ・彭 劍 華中師範大学中国近代史研究所副教授

清末制憲問題の研究

受入教員 石川教授

期間 2017年8月31日～2018年8月30日

- ・李 琬美 弘益大学校師範大学教育学科教授

日本近代進歩主義教育

受入教員 藤原准教授

期間 2017年9月4日～2018年3月31日

- ・朱 騰 中国人民大学法学院副教授

出土文献と秦漢時代の制度史

受入教員 宮宅准教授

期間 2017年9月15日～2018年9月14日

- ・楊 孝鴻 上海財経大学人文学院副教授

漢代画像石（碑）の調査と研究

受入教員 岡村教授

期間 2017年9月20日～2018年9月19日

- ・陳 奉林 北京師範大学歴史学院教授

東洋外交史

受入教員 石川教授

期間 2017年10月10日～2018年1月1日

- ・張 瑋琦 国立清華大学准教授

環境史の視点から見た食文化の継承と活用—食文

化遺産の保護体制に関する日台比較について

受入教員 藤原准教授

期間 2017年11月1日～2018年6月30日

- ・漆 麟 西南大学美術学院准教授

日中戦争期のモダニズム美術に関する日中比較研究

受入教員 石川教授

期間 2017年11月15日～2019年11月14日

- ・丁 雨 北京師範大学歴史学院講師

中国遼金時代の陶磁器の研究

受入教員 向井准教授

期間 2017年12月15日～2018年2月23日

- ・安 東強 中山大学歴史学系副教授

清朝政府と革命党

受入教員 石川教授

期間 2017年12月18日～2018年12月17日

外国人共同研究者

- ・ Scherrmann, Sylke Ulrike
青島旧蔵ドイツ語文献中の法制関係資料の調査
受入教員 岩井教授
期間 2012年4月1日～2018年3月31日（継続）
- ・ 李 周炫 ソウル国立大学歴史研究所・ユソン
奨学財団奨学生
秦漢時代における国家の市場管理
受入教員 宮宅准教授
期間 2016年8月30日～2017年5月31日
- ・ DE SOUZA, Lyle Francis ロンドン大学バー
ベック准講師
海外日系人の文学とディアスポラ・アイデンティ
ティ
受入教員 竹沢教授
期間 2016年9月1日～2018年8月31日（継続）
- ・ PAPA ZIAN, Frederic フランス国立科学研究所
センター科学史研究ラボ特任ソフトウェア技術者
『百科全書』デジタル共同批評校訂版（ENCRRÉ）
構築のための技術開発
受入教員 王寺准教授
期間 2017年2月20日～2017年5月13日
- ・ ERICSON, Kjell David コネチカット大学歴史学
部客員研究助手
ミキモトの真珠産業の帝国規模での展開とその資
本主義的特質
受入教員 藤原准教授
期間 2017年7月2日～2019年7月1日
- ・ LOUZON, Victor パリ政治学院 Junior Teaching
Fellow
日本植民地・占有地の戦時（1937-1945）におけ
る青年の準軍事的動員
受入教員 石川教授
期間 2017年7月15日～2017年8月14日
- ・ 陳 漢文 香港浸会大学中国語文学系助理教
授
十三世紀後期・十四世紀初頭の臨安における文人
の文芸活動
受入教員 永田准教授

期間 2017年7月21日～2017年8月5日

- ・ 李 媛 北海道大学文学研究科専門研究員
日本古辞書の翻刻階層モデルの構築に関する人文
情報学的研究
受入教員 安岡教授
期間 2017年9月11日～2019年9月10日
- ・ 魏 永康 東北師範大学歴史文化学院講師
秦漢時代の民族政策と辺境統治
受入教員 宮宅准教授
期間 2017年9月21日～2018年9月20日
- ・ 劉 家幸 中央研究院中国文哲研究所博士後研究
員
日本の漢文小説における仏教世界：江戸時代から
明治初期を中心に
受入教員 永田准教授
期間 2018年1月18日～2019年1月17日

受託研究員

- ・ 石 立善 上海師範大学哲学学院教授
日本所蔵漢籍古抄本に関する総合的研究
受入教員 古勝准教授
期間 2017年3月1日～2017年8月31日

外国人研究生

- ・ 梁 鎮海
明清交替期の地域社会：自己文書の視角から
受入教員 岩井教授
期間 2016年4月1日～2018年3月31日（継続）
- ・ Kaya Oguzhan
近世・近代日本における宗教と生活圏の研究
受入教員 稲葉教授
期間 2017年4月1日～2019年3月31日
- ・ 金 英仁
近世京都の庶民生活空間としての門前町-北野天
満宮前町と祇園の比較を中心に-
受入教員 岩城准教授
期間 2017年4月1日～2019年3月31日

- ・ 陳 豪
宋代仏教寺院の考古学的研究
受入教員 岡村教授
期間 2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日
- ・ 李 満
六朝時代の仏教思想が絵画創作にあたえた影響
受入教員 船山教授
期間 2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日
- ・ 呉 虹
6-7 世紀日本における仏教美術遺存から見た東アジアの文化交流
受入教員 稲本准教授
期間 2017 年 10 月 1 日～2018 年 9 月 30 日
- ・ 趙 晔
近代日本における中国労働者—人口移動という視点から
受入教員 村上准教授
期間 2017 年 10 月 1 日～2019 年 3 月 31 日
- ・ Caraballo Ricardo
日本の二重国籍者が国籍を放棄するプロセスに関する探究的研究
受入教員 竹沢教授
期間 2017 年 10 月 1 日～2018 年 7 月 31 日
- ・ Vargha Attila
超境する日系二世アメリカ人のアイデンティティ
受入教員 竹沢教授
期間 2018 年 10 月 1 日～2020 年 3 月 31 日
- ・ 呉 日勳
『莊子』郭象注の研究
受入教員 古勝准教授
期間 2018 年 3 月 1 日～2018 年 8 月 31 日

受入教員 宮宅准教授
期間 2017 年 6 月 1 日～2017 年 6 月 25 日

出版物

- 紀要
- ・ 東方学報 92 冊（紀要第 183 冊）
2017 年 12 月 20 日刊
 - ・ 東洋学文献類目 2015 年度
2018 年 2 月 10 日刊
 - ・ 人文学報 第 110 号（紀要第 182 冊）
2017 年 7 月 31 日刊
 - ・ ZINBUN number48
2018 年 3 月刊
 - ・ 人文学報 第 111 号（紀要第 184 冊）
2018 年 3 月 30 日刊

研究報告その他

- ・ 侵犯する身体 田中雅一編
2017 年 6 月刊
- ・ 東方学資料叢刊 第 23 冊 排印本十選 矢木毅編
2017 年 7 月刊
- ・ 〈ポスト 68 年〉と私たち：「現代思想と政治」の現在 市田良彦，王寺賢太編著
2017 年 10 月刊
- ・ 東方学資料叢刊 第 24 冊 松本文三郎舊藏龍門二十品拓本 稲本泰生，安岡素子編
2017 年 10 月刊

短期交流学生

- ・ 姚 周霞
北朝法制研究
受入教員 古勝准教授
期間 2017 年 4 月 1 日～2017 年 6 月 30 日
- ・ 肖 芸曉
中国古代の書籍史